

## 《資料》

## 起業・創業する

——2015年度における大学生を対象とした調査から——

関 智 宏

- I はじめに
- II 調査概要
- III 分析方法
- IV 分析および分析結果
- V 小結

## I はじめに

多様な社会を支えるのは中小企業であり、さまざまなプレーヤーによる起業・創業によって、ますます中小企業の多様性が増すことになる（川名，2015）。

1990年代以降、日本において起業・創業に関連したさまざまな支援施策が充実されてきた。起業・創業を促すための環境づくりだけでなく、起業家に必要な要素など起業家育成のための学習機会も多く整備されてきた（川名・武元，2016）。しかしながら、そうした取組にもかかわらず、起業・創業の割合は増大してこなかった。起業・創業を促すために何が必要であるのか、また起業・創業を何が妨げているのか、本質解明のためのさらなる分析が求められている。

本稿では、社会の担い手である大学生を対象に実施した起業・創業についての意識調査により、とくに起業・創業を妨げる精神的障壁について明らかにしていく。なお本稿では、起業と創業は同義でもちいており、併記して書き表すことにする。

## II 調査概要

2015年6月3日に、筆者が担当する「中小企業論」の当日出席した履修者に対して、起業・創業についての意識調査を行った。設問内容は、「あなたは起業・創業したいと思いますか。『思う』・『思わない』・『わからない』のいずれかを明記したうえで、その理由について具体的に説明しなさい。」であった。

回答数は238で、男子学生が163人（68.5%）、女子学生が72名（30.3%）、性別不明が3名（1.3%）であった（表1）。また起業・創業の意識は、「思う」が74名（31.1%）、「思わない」が125名（52.5%）、「わからない」が39名（16.4%）であった（表2）。

表1 回答者性別

性別	度数	有効回答率
男子	163	68.5%
女子	72	30.3%
不明	3	1.3%
合計	238	100.0%

表2 起業・創業したいと思うか

項目	度数	有効回答率
思う	74	31.1%
思わない	125	52.5%
わからない	39	16.4%
合計	238	100.0%

### Ⅲ 分析方法

本稿では、分析ツールとして KH Coder を使い、「起業・創業したいと思う」グループと「起業・創業したいと思わない」グループをそれぞれ分けたかたちで回答データの分析を行った。KH Coder による分析を行うまえに、データの事前処理をしたところ、「起業・創業したいと思う」グループについては、総抽出語数（括弧内は使用された語数）は 11,341（4,037）であり、異なり語数（同）は 1,535（1,245）であった。また集計単位は、「文」が 474、「段落」が 74、また分析対象となる「H5」が 74 であった。また、「起業・創業したいと思わない」グループについては、総抽出語数（括弧内は使用された語数）は 15,639（5,522）であり、異なり語数（同）は 1,582（1,267）であった。また集計単位は、「文」が 672、「段落」が 125、また分析対象となる「H5」が 125 であった。なお全体としては、総抽出語数が 32,745（11,644）であり、異なり語数（同）は 2,517（2,108）であった。また集計単位は、「文」が 1,397、「段落」が 238、また分析対象となる「H5」が 238 であった。

次に、頻出度数が多いものから 150 語をまとめた。「創業」、「起業」、「企業」、「考える」、「自分」、「思う」の各用語は抽出語から省いた。「起業・創業したいと思う」グループの頻出語を示したものが、表3である。「日本」がもっとも多く、出現回数は 66、「社会」が 50、「中小」が 46、「会社」が 37 であった。また、「起業・創業したいと思わない」グループの頻出語を示したものが、表4である。「リスク」がもっとも多く、出現回数は 57 であった。「中小」が 54、「会社」が 53、「今」が 53 であった。

表3 「起業・創業したいと思う」グループの抽出語一覧

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
日本	66	知識	12	育児	7	違う	5
社会	50	地域	12	興味	7	価値	5
中小	46	問題	12	常に	7	海外	5
会社	37	与える	12	人間	7	業種	5
今	36	技術	11	多い	7	行動	5
理由	28	人々	11	大学	7	高度	5
将来	27	世界	11	知る	7	高齢	5
人	26	多く	11	中国	7	事業	5
感じる	25	さまざま	10	立つ	7	時代	5
経営	25	リスク	10	いろいろ	6	実現	5
経済	25	活動	10	すべて	6	商品	5
仕事	25	求める	10	たくさん	6	進む	5
現在	21	上げる	10	チャレンジ	6	生きる	5
学ぶ	20	聞く	10	ニーズ	6	精神	5
働く	18	環境	9	ベンチャー	6	絶対	5
必要	17	見る	9	安定	6	選択肢	5
可能	16	言う	9	一番	6	卒業	5
業界	16	時間	9	活躍	6	大事	5
自身	16	失敗	9	起こす	6	比べる	5
貢献	15	分野	9	具体	6	必ず	5
作る	15	ノウハウ	8	形	6	未来	5
持つ	15	気持ち	8	言える	6	目指す	5
成長	15	経験	8	自信	6	サポート	4
大きい	15	雇用	8	社長	6	ゼミ	4
サービス	14	好き	8	需要	6	ファッション	4
考え	14	実際	8	少し	6	リーダー	4
支える	14	収入	8	少ない	6	安心	4
就職	14	重要	8	生み出す	6	意志	4
女性	14	新しい	8	昔	6	開発	4
存在	14	身	8	創る	6	関係	4
力	14	人生	8	大変	6	規模	4
自ら	13	責任	8	得る	6	強い	4
成功	13	組織	8	独立	6	勤める	4
発展	13	良い	8	入る	6	見える	4
ビジネス	12	いつか	7	非常	6	現代	4
影響	12	お金	7	勉強	6	限る	4
行う	12	アイデア	7	目	6		
生活	12	イメージ	7	話	6		

表4 「起業・創業したいと思わない」グループの抽出語一覧

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
リスク	57	将来	16	廃業	9	問題	7
中小	54	言う	15	比べる	9	立場	7
会社	53	自信	15	家族	8	話	7
今	53	年	15	環境	8	たくさん	6
人	49	良い	15	技術	8	タイプ	6
経営	48	リーダー	14	社長	8	ニーズ	6
必要	47	現在	14	上げる	8	リーダーシップ	6
理由	47	人間	14	新た	8	運営	6
感じる	39	責任	14	性格	8	仮に	6
安定	35	お金	13	成長	8	家庭	6
働く	35	思い	13	増える	8	関わる	6
成功	33	自営業	13	多く	8	規模	6
大きい	30	負う	13	地域	8	競争	6
知識	28	さまざま	12	入る	8	業界	6
日本	28	経験	12	分野	8	現代	6
持つ	27	高い	12	力	8	行う	6
仕事	26	思える	12	ある程度	7	作る	6
難しい	26	自ら	12	イメージ	7	支援	6
就職	25	実際	12	既存	7	受ける	6
従業	25	ベンチャー	11	勤める	7	場合	6
父	25	求める	11	見える	7	世界	6
ビジネス	24	強い	11	現状	7	続く	6
社会	24	向く	11	雇用	7	存続	6
見る	22	考え	11	講義	7	倒産	6
失敗	22	少し	11	貢献	7	変わる	6
自身	21	不安	11	参入	7	勉強	6
多い	21	ノウハウ	10	時代	7	明確	6
立つ	21	可能	10	借金	7	利益	6
生活	19	活動	10	授業	7	お話	5
資金	18	厳しい	10	出る	7	すべて	5
少ない	18	資本	10	人々	7	サービス	5
存在	18	大変	10	世の中	7	スキル	5
事業	17	能力	10	挑戦	7	チャレンジ	5
新しい	17	背負う	10	得る	7	ビジョン	5
人生	17	トップ	9	特に	7	一番	5
聞く	17	経済	9	普通	7	確立	5
アイデア	16	市場	9	抱える	7		
学ぶ	16	支える	9	目	7		

以上の抽出されたデータを基本として、共起ネットワークおよび階層的クラスター分析、さらにコーディングによる各種分析を行った。

#### IV 分析および分析結果

##### 1. 「起業・創業したいと思う」グループ

共起ネットワークの分析を行うための設定のうえで、まず語の最小出現数を10にした。また、強い共起関係ほど太い線で、また出現数の多い語ほど大きい縁で描画するようにし、描画数を60にした。

「起業・創業したいと思う」グループの共起ネットワークの分析の結果を図示したものが、図1である。「日本」、「社会」、「今」、「貢献」、「サービス」を中心とした共起関係がみられた。

また、階層的クラスター分析を行ううえで、語の最小出現数を10に設定した。また方法は

図1 「起業・創業したいと思う」グループの共起ネットワーク

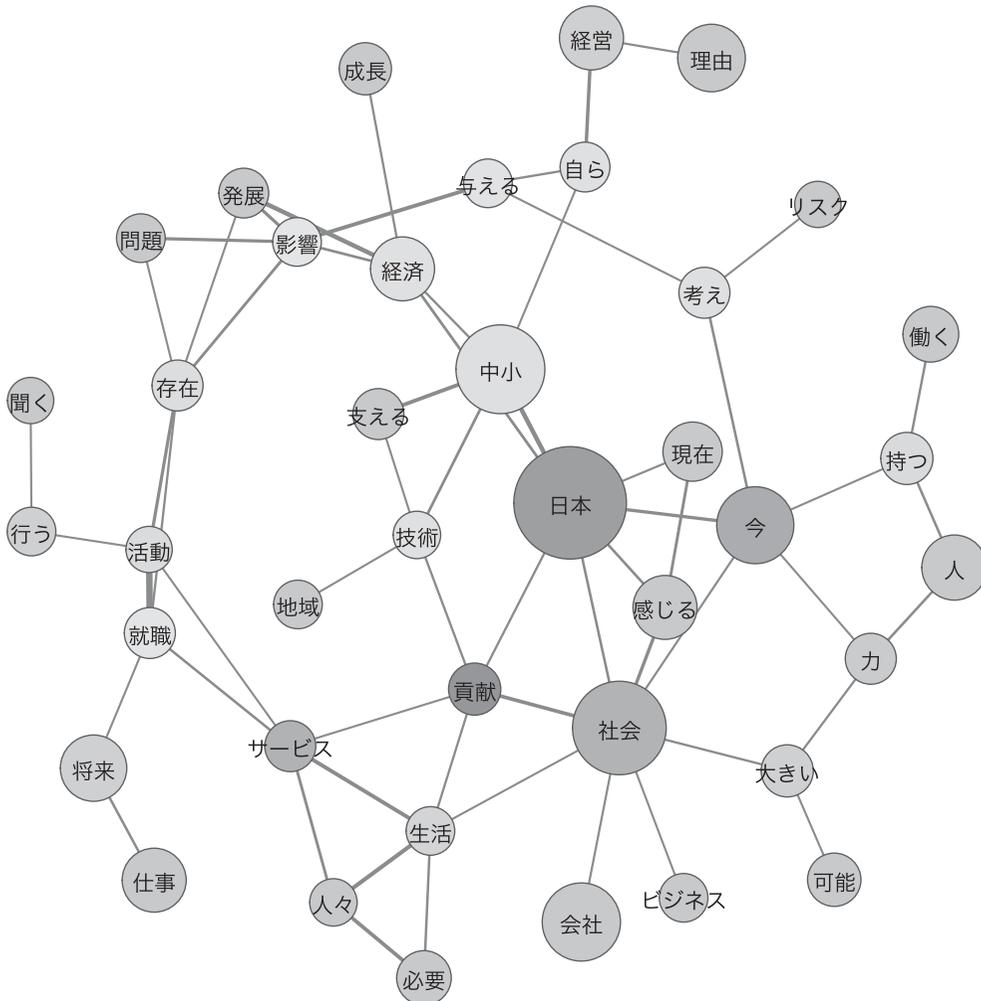
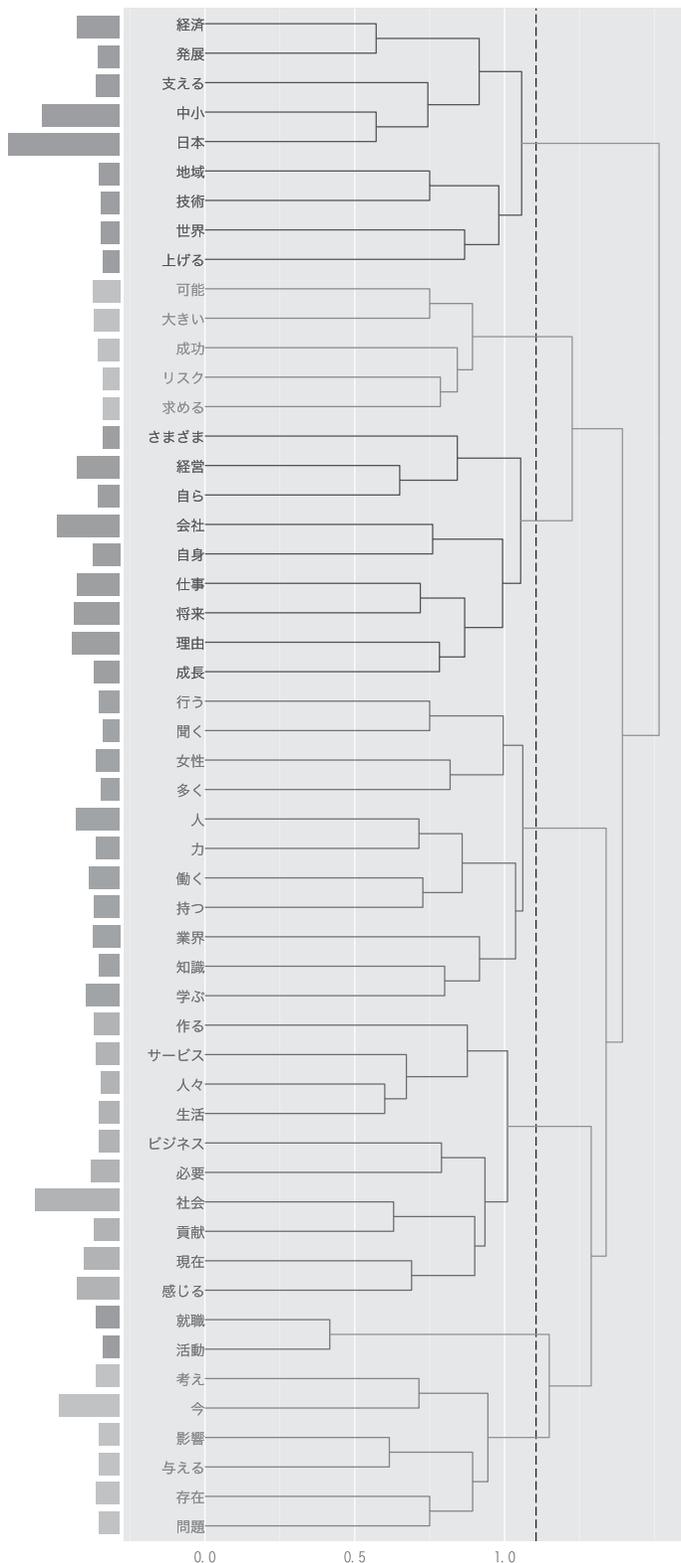


図2 「起業・創業したいと思う」グループの階層的クラスター分析



Ward 法であり、Jaccard の距離を 1 以上のものとした。分析の結果、7つのクラスターが導出された。分析の結果を図示したものが、図 2 である。

共起ネットワーク分析と階層的クラスター分析の整合性についてみると、次の 4 つの諸点を指摘することができる。

第 1 に、中小企業が日本経済の発展や技術を支えるという点である。これには、「日本」、「中小」、「経済」、「支える」、「発展」などといった項目が含まれる。これら 5 つの項目をから、「経済発展・技術」というコードとする。

第 2 に、サービス業を通じて社会に貢献する点である。これには、「社会」、「サービス」、「貢献」などといった項目が含まれる。これら 3 つの項目から、「サービス業で社会貢献」というコードとする。

第 3 に、将来の仕事に役立つ、自ら成長できる点である。これには、「将来」、「成長」、「仕事」、「自ら」などといった項目が含まれる。これら 4 つの項目から、「将来志向」というコードとする。

第 4 に、リスクよりも成功する可能性が大きい点である。これには、「可能」、「大きい」、「成功」、「リスク」などといった項目が含まれる。これら 4 つの項目から、「大きな成功可能性」というコードとする。

以上のコード別の単純集計をみたものが、表 5 である。

表 5 コード別の単純集計（「起業・創業したいと思う」グループ）

コード	度数	割合
経済発展・技術	27	36.49%
サービス業で社会貢献	29	39.19%
将来志向	39	52.70%
大きな成長可能性	31	41.89%
コード無し	10	13.51%
(文書数)	74	

次に、コード別に性別の差を検証したものが、表 5 である。

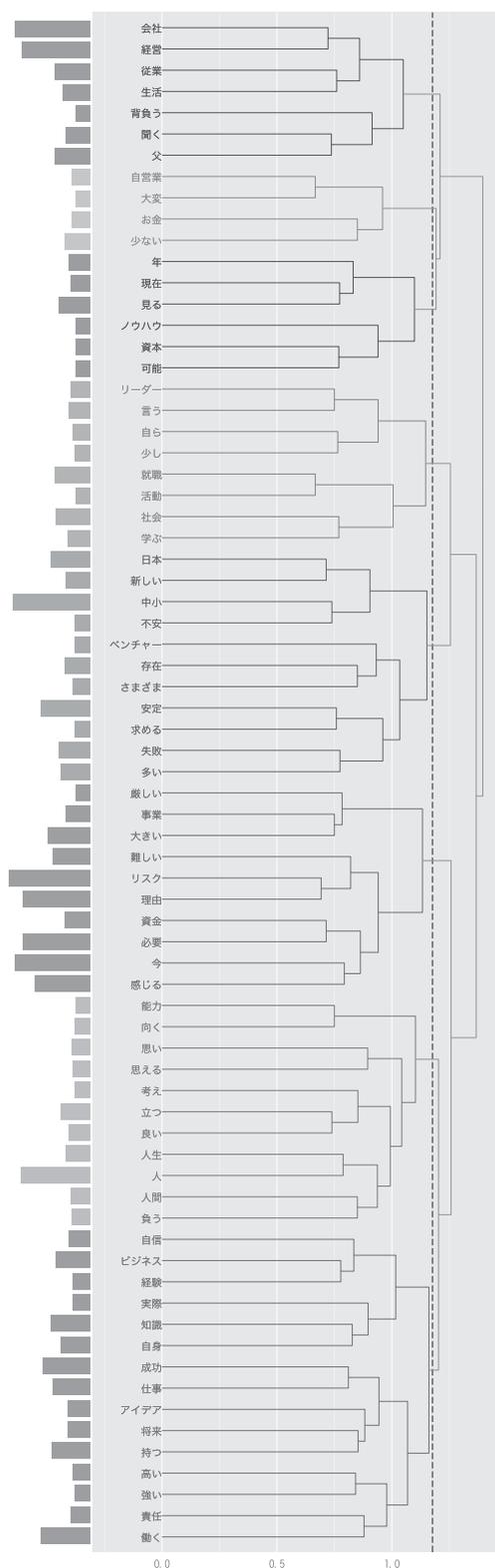
表 6 コード別の差の検証（「起業・創業したいと思う」グループ）

	経済発展・技術	サービス業で社会貢献	将来志向	大きな成長可能性	ケース数
男子	18 (33.96%)	24 (45.28%)	31 (58.49%)	24 (45.28%)	53
女子	7 (36.84%)	5 (26.32%)	7 (36.84%)	6 (31.58%)	19
不明	2 (100.00%)	0 (0.00%)	1 (50.00%)	1 (50.00%)	2
合計	27 (36.49%)	29 (39.19%)	39 (52.70%)	31 (41.89%)	74
カイ 2 乗値	3.628	3.436	2.636	1.135	

また、コード別に性別の差を検証したものが、表 6 である。4 つのコードいずれにおいても、統計的に有意な差はみられなかった。



図4 「起業・創業したいと思わない」グループの階層的クラスター分析



共起ネットワーク分析と階層的クラスター分析の整合性についてみると、次の4つの諸点を指摘することができる。

これには、「自営業」、「大変」、「お金」、「少ない」といった項目が含まれる。これら4つの項目から、「自営業大変」というコードとする。

以上のコード別の単純集計をみたものが、表7である。

表7 コード別の単純集計（「起業・創業したいと思わない」グループ）

コード	度数	割合
リスク大きい	71	56.80%
経営背負う	49	39.20%
失敗・不安定の不安	43	34.40%
自営業大変	29	23.20%
#コード無し	21	16.80%
(文書数)	125	

次に、コード別に性別の差を検証したものが、表8である。4つのコードいずれにおいても、統計的に有意な差はみられなかった。

表8 コード別の差の検証（「起業・創業したいと思わない」グループ）

	リスク大きい	経営背負う	失敗・不安定の不安	自営業大変	ケース数
男子	43 (51.81%)	31 (37.35%)	27 (32.53%)	17 (20.48%)	83
女子	28 (66.67%)	18 (42.86%)	16 (38.10%)	12 (28.57%)	42
合計	71 (56.80%)	49 (39.20%)	43 (34.40%)	29 (23.20%)	125
カイ2乗値	1.94	0.161	0.176	0.621	

### 3. グループ間の分析

「起業・創業したいと思う」グループと「起業・創業したいと思わない」グループとの間で、上記で抽出された8つのコード別に検討する。コード別に、グループ間の差を検証したものが、

表9 コード別のグループ間の差の検証

	経済発展・技術	サービス業で社会貢献	将来志向	大きな成長可能性
思う	27 (36.49%)	29 (39.19%)	39 (52.70%)	31 (41.89%)
思わない	27 (21.60%)	27 (21.60%)	45 (36.00%)	70 (56.00%)
わからない	14 (35.90%)	17 (43.59%)	11 (28.21%)	16 (41.03%)
合計	68 (28.57%)	73 (30.67%)	95 (39.92%)	117 (49.16%)
カイ2乗値	6.274*	10.423**	8.074*	4.937

	リスク大きい	経営背負う	失敗・不安定の不安	自営業大変	ケース数
思う	22 (29.73%)	24 (32.43%)	13 (17.57%)	20 (27.03%)	74
思わない	71 (56.80%)	49 (39.20%)	43 (34.40%)	29 (23.20%)	125
わからない	15 (38.46%)	7 (17.95%)	7 (17.95%)	6 (15.38%)	39
合計	108 (45.38%)	80 (33.61%)	63 (26.47%)	55 (23.11%)	238
カイ2乗値	14.643**	6.083*	8.507*	1.949	

表9である。

「起業・創業したいと思う」グループから抽出された「経済発展・技術」、「サービス業で社会貢献」、「将来志向」、また、「起業・創業したいと思わない」グループから抽出された「リスク大きい」、「経営背負う」、「失敗・不安定の不安」のそれぞれの項目において、統計的に有意な差がみられた。

## V 小 結

本稿では、社会の担い手である大学生を対象に実施した起業・創業についての意識調査により、とくに起業・創業を妨げる精神的要因について明らかにしていくことを目的としていた。

「起業・創業したいと思う」グループでの共起ネットワークの分析、また階層的クラスター分析から、①中小企業が日本経済の発展や技術を支える、②サービス業を通じて社会に貢献する、③将来の仕事に役立つ、自ら成長できる、④リスクよりも成功する可能性が大きい、の4つの点を抽出することができた。「起業・創業したいと思わない」グループでの同様の分析から、⑤リスクが大きい、⑥経営を背負う（父などから話を聞く）、⑦失敗したり、安定しないことが不安である、⑧自営業であると大変である、4つの点を抽出することができた。これら8つの点にかかる項目をコーディングし、グループ間での差を検証したところ、①中小企業が日本経済の発展や技術を支える、②サービス業を通じて社会に貢献する、③将来の仕事に役立つ、自ら成長できる、⑤リスクが大きい、⑥経営を背負う（父などから話を聞く）、⑦失敗したり、安定しないことが不安である、の6つのコードについて、統計的に有意な差がみられた。

日本では、充実した起業・創業のための支援施策が整備されてきたが、その取組にもかかわらず、起業・創業の割合は増大してこなかった。大学生による起業・創業を今後増大させていくためには、「起業・創業したいと思わない」理由としてあげられた、リスクが大きいこと（リスクを負いたくない）、経営を背負うということ（そうはしたくない）、失敗したり、安定しないことを不安に感じる（失敗したくない、安定した生活を送りたい）という精神的障壁をいかに低めていくか、その環境整備のための支援施策が求められる。

日本では、女性の起業・創業が男性と比べて少ないことから（川名・武元，2016）、性別による起業・創業への意識の違いを確認するべく、上述の8つのコードについて性別の差の検証を行ったが、8つのコードについては、いずれも統計的に有意な差はみられなかった。このことは、考察の対象となったデータが、就業前の大学生によることに起因するかもしれない。就業後には、女性起業家が男性起業家と異なり、結婚や出産などによるキャリアの中断や管理職経験の有無など、キャリア形成に違いがあったり、また起業したとしても女性の場合には事業の成長・発展に消極的であったり、またその関係性の範囲が家族や友達といったプライベートな範囲にとどまる傾向が多いといった違いがある（川名・弘中，2016，p.13）。データが大学生によることに起因するという点については、今後慎重な検討が必要であろう。

本稿での内容は、2015年度という単年度のデータに限定したうえで、分析方法、分析、その

結果を示すとともに、若干の示唆を提示しただけにとどまっている。これは、分析方法や分析それ自体において多くのやり残した諸点があるためである。今後はデータを経時的に収集・分析していくことはもちろんのこと、関連文献のレビューをつうじて、本稿の学術的位置づけを明確にし、さらに本稿で得られた分析結果を慎重に解釈したり、また学術的意義を導出したりしていくことなどを行っていく必要がある。これらについては、いずれも今後の課題であり、かたちを変えて、別稿にて提示することにした。

#### 付記

2017年4月のあるときに信じがたい連絡が届いた。高千穂大学の副学長をされていた川名和美先生の訃報であった。川名先生は、私が大学院生のときから親しくさせていただき、オーバードクターの後、前任校の阪南大学への着任が決まった際には、自分のことのように喜んでいただいた。川名先生は、前任の広島修道大学に着任されてから、女性や若者をはじめとする起業家社会の実現を待望されておられたし、その実現に向けたさまざまな取組を実践されていた。川名先生を失ったことは日本における中小企業研究およびアントレプレナー研究における多大な損失である。川名先生の遺志を引き継ぎ、さらに研究を展開させていくことがささやかな手向けになるかもしれない。本稿を執筆したのは、まさにそのような動機が発端であった。本稿を川名先生の墓前に捧げさせていただければ深甚である。

データの入力にあたっては、同志社大学商学部関ゼミ2期生の久保田結衣さんと筒井舞さんに作業を手伝ってもらった。2人には、この場をお借りし、記して感謝の意を表したい。なお本稿でありうる過誤は、筆者の責に帰することを明記する。

#### 参考文献

- 川名和美 (2015) 「中小企業経営・起業における「主体の多様化」-起業家の学習と中小企業の多様性の今日的視点-」日本中小企業学会編『多様化する社会と中小企業の果たす役割』同友館, pp.16-24
- 川名和美・弘中史子 (2016) 「日本の女性起業家の成長・発展と支援環境-雇用と事業成長という視点からの予備的考察-」大阪経済大学中小企業・経営研究所『中小企業季報』2016 No.2, pp.12-24
- 川名和美・竹元雅彦 (2016) 『社会人基礎力を養うアントレプレナーシップ 起業家精神を考える 12のストーリー』中央経済社

## 参考資料

表 10 男子学生の抽出語一覧

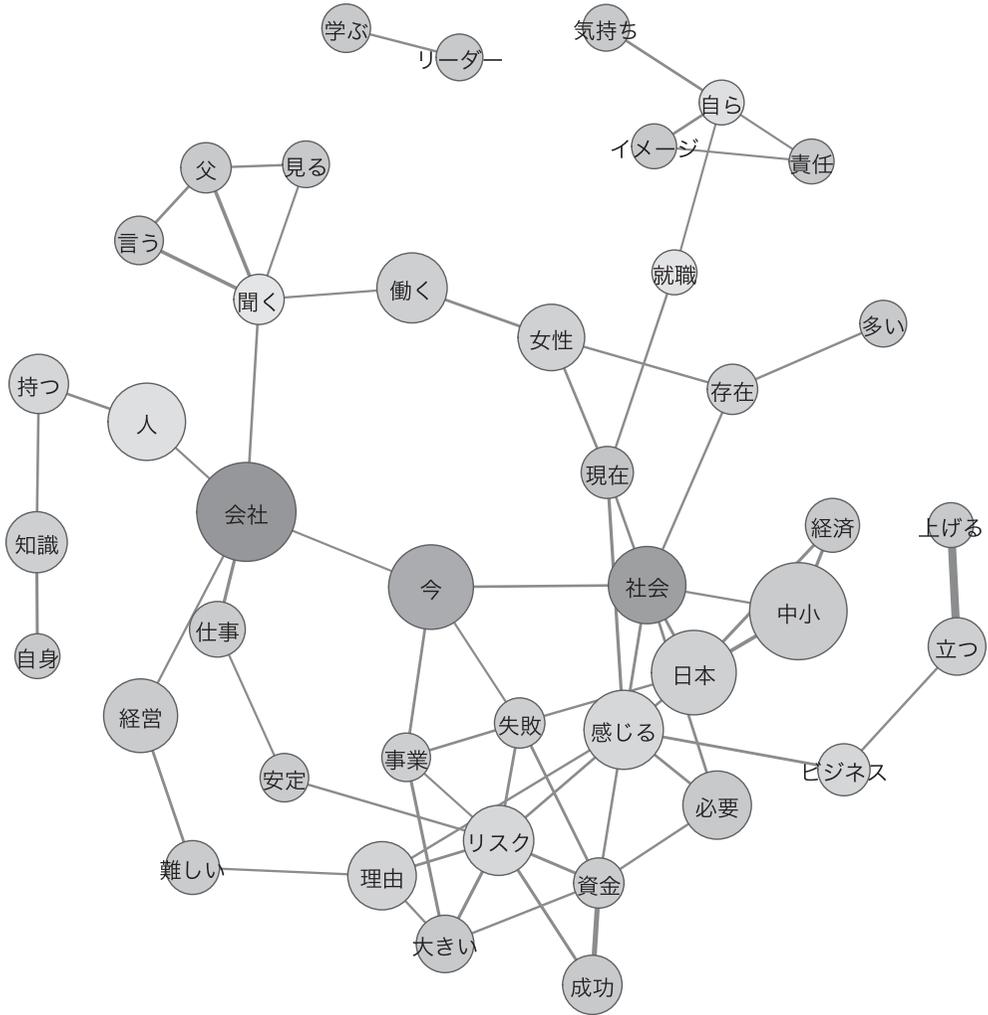
抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
今	84	父	20	挑戦	14	仮に	9
中小	77	問題	20	興味	13	気持ち	9
会社	74	立つ	20	事業	13	厳しい	9
社会	69	活動	19	自営業	13	現状	9
人	61	経験	19	自信	13	講義	9
日本	61	貢献	19	多く	13	時代	9
理由	61	自ら	19	大学	13	社長	9
経営	52	人間	19	分野	13	受ける	9
必要	52	聞く	19	サービス	12	世の中	9
リスク	49	お金	18	トップ	12	創る	9
感じる	49	求める	18	影響	12	卒業	9
就職	47	力	18	資金	12	得る	9
働く	42	思い	17	身	12	魅力	9
成功	41	人々	17	生み出す	12	労働	9
仕事	38	世界	17	大変	12	ある程度	8
将来	37	成長	17	地域	12	スキル	8
大きい	34	難しい	17	年	12	チャレンジ	8
安定	32	与える	17	ニーズ	11	ビジョン	8
持つ	32	良い	17	解決	11	違う	8
知識	32	ベンチャー	16	雇用	11	家庭	8
ビジネス	30	言う	16	資本	11	関係	8
自身	29	行う	16	収入	11	新た	8
学ぶ	28	少し	16	話	11	性格	8
現在	28	上げる	16	すべて	10	大事	8
存在	28	入る	16	イメージ	10	低い	8
見る	27	環境	15	一番	10	非常	8
失敗	26	技術	15	強い	10	負う	8
生活	26	高い	15	現時点	10	変わる	8
多い	26	支える	15	言える	10	抱える	8
考え	23	実際	15	始める	10	夢	8
さまざま	22	従業	15	市場	10	立場	8
アイデア	21	少ない	15	時間	10	たくさん	7
業界	21	責任	15	前	10	サラリーマン	7
経済	21	知る	15	組織	10	ゼミ	7
新しい	21	ノウハウ	14	能力	10	リーダー	7
人生	21	出る	14	比べる	10	意志	7
可能	20	場合	14	勉強	10		
作る	20	選択	14	目	10		



表 11 女子学生の抽出語一覧

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
会社	40	新しい	11	さまざま	6	環境	4
中小	39	多い	11	チャレンジ	6	求める	4
今	32	イメージ	10	活動	6	勤める	4
日本	32	自ら	10	規模	6	決める	4
感じる	29	自身	10	興味	6	見える	4
社会	28	就職	10	具体	6	言える	4
人	28	少ない	10	向く	6	雇用	4
経営	26	上げる	10	姿	6	高齢	4
リスク	24	責任	10	需要	6	国	4
働く	24	地域	10	成長	6	困難	4
必要	23	能力	10	年	6	始める	4
理由	23	サービス	9	力	6	市場	4
女性	22	支える	9	話	6	支援	4
知識	19	実際	9	いろいろ	5	視点	4
持つ	18	将来	9	お金	5	時代	4
成功	18	生活	9	ノウハウ	5	借金	4
大きい	17	不安	9	影響	5	授業	4
立つ	17	良い	9	拡大	5	少し	4
仕事	16	育児	8	簡単	5	場合	4
従業	16	貢献	8	技術	5	状況	4
経済	15	自信	8	強い	5	信頼	4
難しい	15	身	8	雇う	5	新た	4
ビジネス	14	人生	8	行う	5	人々	4
現在	14	多く	8	作る	5	人間	4
資金	13	発展	8	社長	5	生きる	4
失敗	13	問題	8	世の中	5	昔	4
存在	13	可能	7	続く	5	知る	4
父	13	起こす	7	倒産	5	得る	4
聞く	13	経験	7	父親	5	特に	4
安定	12	好き	7	負う	5	廃業	4
学ぶ	12	考え	7	魅力	5	莫大	4
言う	12	思い	7	明確	5	比べる	4
事業	12	自営業	7	面	5	不可欠	4
たくさん	11	重要	7	利益	5	目	4
リーダー	11	増える	7	いつか	4	すべて	3
気持ち	11	大変	7	運営	4	ニーズ	3
見る	11	伴う	7	解決	4		
思える	11	分野	7	活躍	4		

図6 女子学生の共起ネットワーク



自由記述一覧

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
9	2	1	1	私は中小企業の真似できない技術、高度な技術を中小企業で学びたいと考えている。そして将来自分で企業を立ち上げ、学んだ企業の上をいく技術で世界や日本の大企業に商品を売り、地域に貢献できる企業を目指していきたいと思っている。また、その技術を弟子に受け継いでもらい、100年以上、1000年以上続く中小企業を目指したいと考えている。
10	2	2	1	自分が興味を持つ分野においてほかの人に自分の考えを知ってもらうことは楽しいことだと思うから。なにか、私によって人に良い影響を与えられることをしたいから。
11	2	2	1	自らが会社を起こし、物事を客観的に見て、周りをまとめたり指示したりしたいからだ。でも起業したいと簡単には言えるが実際に行動を起こすことは難しい。お金が今はあっても、将来起業をしてどのように傾くかわからない。経営戦略も今のままでは、中途半端すぎて使えない。だから私は、経営者などの実際に起業してきた人の実体験を聞いて自信をつけたい。知識ももちろん学べるが、起業において最終的に重要なものは気持ち、自身である。例えば、プレゼンテーションを行う際、初めてやるときはもちろん失敗するし、自身もない。しかし、回数を重ねるうちにだんだんコツもつかみ自信にもつながり、プレゼンが楽しく思えるという考えと同じではないだろうか。だから私は起業をするために自ら学び、さまざまな考えをもった経営者と出会い、いろいろなモノの見方を身に付けていきたい。
12	2	1	1	私の中で起業というのは一番の目標である。起業とは、自分で会社を建て、自分で営んでいくものだ。そこでの成功、失敗はそれまでの成果の表れであり、人生の成績表だと思っている。だから私は将来必ず起業する。
13	3	1	1	私がなぜこのように答えたかという、実際にこの2ヶ月以内に起業するからである。ではなぜ私が起業するかですが、私の友人で現在東京の大学に通っている子がいて、その子と高校時代に将来一緒にやりたいといった話をしており、では私たちが実際に一緒に起業するとなった際に、その時就いている職を捨て、一から始めるのかそれとも今やるのかという選択肢の中から迷わず後者を選びました。僕の友人の考えは職を捨てることとはすぐには言えないという答えの元を選択だと思うのですが、僕の考えは、今やる方が圧倒的にリスクが低いと思ったからです。以上のように、私は起業・創業をしたいと思っています。
14	3	1	1	富と権力を手に入れるための一番の近道は自分が社長になることではないだろうかと考えているからだ。もちろんリスクは承知しているが、人生は一回しかないというのならその可能性に賭けてみて自分を試したい。私はその可能性を1%でも上げるために企業・経営を専攻している。
15	3	1	1	私自身は洋服やデザインの会社を起業したいと考えています。理由としては、自身で立ち上げたブランドで店舗に来てもらったお客様にその洋服を着ている自分というビジョンを見せるようなデザインのある服を作りたいからです。
16	3	1	1	この講義のテキストにも書かれているように中小企業は経済や暮らしを支え牽引する。創意工夫を凝らし、技術を磨き、雇用の大部分を支え暮らしに潤いを与える。つまり、自分がどのような形で社会貢献できるのか、何をしたいのかを自分の意思で定められるということだ。簡単なことではないというのは十分わかっているが自分の会社社員ひとりひとりを家庭を潤している。またその地域に何らかの形で貢献することができる。そのやりがいがある仕事だからこそ自分自身努力し、常に成長することができると考える。
18	3	1	1	なぜなら、先生の話を聞いて、授業を聞いて、中小企業がどれだけ大事であるかということがわかったからです。起業して失敗するというよりもそれをチャレンジして失敗を恐れず、成功目指して行うことが大事であり意味があることだと思いました。大変な時代から日本を支えてきたのは中小企業であると学んだため、私は起業したいと思いました。
20	3	1	1	企業家精神があふれていないと自分で思うから。
26	3	1	1	昨今世界中の多くで社会問題が起きています。私はこのような社会問題をビジネスで解決するソーシャルビジネスを行いたいので起業したいです。特にファッション業界でソーシャルインノベーションを起こしたいです。バングラディッシュで起こった「ラブプレスの悲劇」というものを知ってから私は以前にも増してそう思うようになりです。現状、多くの企業がCSRを求められていますが、ファッション業界でCSRを公言し活動している企業は少ないです。なので私は現在勉強中ですが、ファッション業界で将来ソーシャルインノベーションを起こしたいので起業したいです。
28	3	1	1	現在、私はテールブルクロスという学生が創業した社会起業の行うイベントのお手伝いを指せて頂いております。お手伝いをしていて感じることは、社長の方は確かに責任や義務などがあり、大変なこともあるかもしれないが、本当に自分のしたいことができている生き生きとしているということです。私自身、自分が行うことが大事であることを人生においてやりたいのかということはまだ正直わかりませんが、それがわかった時は起業したいです。そのために自分のスキルを上げたりコミュニケーションを広げたいと思っています。
30	3	1	1	それは大きく3つの理由があります。1つ目の理由は、私の将来のビジョンに関してです。私は50歳頃になったら投資家になり時間的に自由な暮らしをしたいからです。そのためには当然資産が必要ですが、その資産を自分で起業し作りたいからです。普通に就職してもある程度の資産はできるかもしれませんが、しかし、投資家として自由に生活するためには十分ではないと考え、起業したいと考えてます。2つ目の理由は、上司であったり上の方からのしがらみが価値観の押し付けといったように働かされる環境が好きではないからです。この言い方では社会の枠組から逃げていると思われがちですが、それは逆に自分の意志で働き自分の好きなことをしていく環境を作っていくという考えから起業したいと考えております。最後の理由は、自分が作った仕組みやサービスを目に見えない形で残し、数々の人々を笑顔にし幸せにしていきたいからです。例えば、四葉を歩いてもまだまだ不便な点や足りない点がちらほら目に付きます。そのような物事に対して自分の力で発信し変革を与えて日本をよりよい国に変えていきたいからです。以上、3つの理由から私は起業したいと考えます。
34	3	1	1	自分の意志に沿った形でビジネスが展開できるからです。もちろん、その分責任の所在は重くなってしまいますが、代わりに仕事に対するやりがいや金銭的報酬が大きくなるのがたいへんよいと感じます。また、会社を一から作っていくことになるので、自分が社会に対して提供したいと考えていることを業種にでき、自身が考えるよりよい社会を実現させる手段となりうる点もよいと感じます。
40	3	1	1	中国では、日本のような成熟した制度がないが、なんとなく良い経験になる。将来的に有利だ。そしてせつかく中小企業の知識について勉強したから実践したい。具体的に言えば、まずは自分のために仕事するからやる気がある。そして、もし成功すれば、収入は高い。さらに、今社会の競争をはっきりわかる。自分がいる立場もよくわかることができる。
43	3	1	1	理由は主に3つある。1つ目は、社会人として日本の経済や社会に少しでも貢献したいと考えているからだ。日本における企業の二重構造は労働生産性や技術革新の波及、GDPの拡大を阻害する大きな要因となっている。その要因を少しでも解消するために、初めは小さな企業であっても起業し、社会貢献をしたいと思っている。2つ目は、自分の力をためすことができるからだ。既存の企業に入ること安定を得ることはできると思うが、今まで積み重ねてきたものを出し切らずに、定年をむかえるのももったいないと感じてしまう。たとえ安定がなくとも、大きな器に守られることなく、自分の力で社会の中でやっていく、社会に影響を与える存在となれたら、これほど自分の存在意義を見出せることはないと感じる。3つ目に、現代の日本は、昔と比べて、起業する環境が整っているからである。最低資金もなく、不利は正や近代化を目指し、中小企業の数を増やしていこうとしている時期に、障害となるのは、チャレンジ精神や勇気など気持ちの問題だけである。そこを乗り越えて起業できたとしたら、精神面の強さを測ることにもつながるのではないかと考える。上記3点の理由により、私は自分の存在意義、力試しの観点により比重を置いた考えで、起業したいと思っている。

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
44	3	1	1	その理由は主に3つある。1つ目の理由は、「お金」である。収入を得る方法はいくつかあるが、その中で最もポピュラーなのは正社員として企業で働くことである。しかし、その労働時間や労働に対する収入が多くの場合見合っていないと私は考える。よって、それが直結する経営者が私の性に合っている。2つ目は、企業を運営することで多くの人間的成長が見込めるだろうということである。3つ目は、何か自分の作り上げたものがほしいという願望によるものである。以上により、私は将来企業・創業したいと考えている。
47	3	2	1	自分が責任をもって人を雇って仕事を行うのはとても大変だと思うけど、企業で雇われて働くと、自分の能力が発揮できなかったり、自分のやりたいことを行わずに人生を終えてしまいそうだから、起業して自分のしたいことを賛同してくれる仲間とやりたいから。
48	3	3	1	まず現代の日本政府は中小企業を発展させるため、いろいろな政策を出している創業したい分野を考え、うまく使用し、役に立つ企業を創業したい。次に、日本人はだいたい一生1つの会社に勤めるだけ、ほかの業界とはあまり接触しない。自分で起業し、常に流行っている業界、新しい分野を考え、企業を1つの業種だけではなく、いろんな業種を取扱うことができる。そして日中貿易の発展によって、中国との貿易は日本の経済に重要な部分に占めていることを理解し、自分は中国語が話せる特徴があるため、絶対役に立つと思う。
49	3	3	1	私は中国からの留学生で、日本で勉強していた知識を活用して、日中貿易か、観光について何かやりたいと考えています。なぜなら最年中国における高度経済成長をしつつあり、ベンチャー事業にとって、非常にいいタイミングで、さまざまな可能性を創造できる時期だと考えられます。また、日本に多くのすぐれた企業があって、中国の企業より前に一歩進んでいます。必ず勉強できることがたくさんあります。それを勉強して、将来自分の仕事に絶対役に立つと思います。今の中国は高度経済成長しているが、日本のバブル経済のようにいつかになるとダメになる可能性があります。そこで、そのバブルを崩壊したらどうすれば乗り越えられるのか、日本に勉強することがあります。
51	3	1	1	1. お金持ちになりたい。2. 人に使われるのは嫌だ。3. 世の中の役に立ちたい。4. 社長と一度で呼ばれてみたい。5. 自己の可能性を試したい。
52	3	2	1	現在日本の社会にはさまざまな企業があり、言ってしまうと「何でもあり」な時代である。多様な角度から新規介入が起こっており、いざ私が起業・創業をしたいと思っても入り込むことができる市場がないかと感じることがある。その不便が生じる限り人々は求めることをやめないで需要はある。したがって私の必要がある限りは起業・創業をしたいと考える。
54	3	2	1	その理由の1つとして、1つ目は新しい企業はさまざまな可能性があり、売上高を大きく伸ばすことができると思うから。もう1つの理由として起業・創業することは、新しい雇用場を創出することができるからである。この売上高や雇用創出の増加は結果として国の経済発展にも寄与することができる。そのため私は多くの可能性のある起業・創業を行い、自社の売上高を伸ばし、事業規模を拡大させながら利益を上げ、それが結果として国の経済に良い影響を及ぼすことにつながってほしいと考えるため起業・創業をしたいと考える。
58	3	2	1	中小企業は地域経済の発展につながる重要な役割であると考えている。近年の日本経済では少子高齢化や地域の過疎化が問題や、平成不況や経営者の高齢化により、中小企業の廃業率も低下しており問題となっている。少子高齢化の影響を少しでもやわらげるためには、地域経済の発展が重要になる。地域に中小企業などの企業が多数存在することで、これらの地域の幅広い多様な企業が地域おこしをすることで、地域の活性化につながる。よって、このようにこれからの日本の将来のことについて考えてみると、今の私たちの世代が積極的に起業して、地域経済の発展のため、日本経済の発展のためにつなげれば良いと考えたので、私は起業してみたいと思った。
62	3	2	1	なぜなら、日本の経済成長を支える企業の1つとしてこれからの日本を支えていきたいと思ったからである。起業するならば中小企業だと思ふ。これからの世の中の動きを見据えて自分の企業にしかない新技術や高度な知識を持った企業にすることができたらいいと思う。少子高齢化が進み、内需だけではなく外国にも進出し、競争が激しくなっていく大企業を支えたいような企業を起業してみたい。現在、テレビ番組などを見た時に日本の中小企業の独自の技術が見直され、中小企業の底力や重要性などを感じた。中国などの発展途上国にはそのような大企業が日本と比べ圧倒的に少ない。したがって、日本の大企業が苦戦している現在、中小企業が経済成長の鍵となるのではないかと。私には起業しても大企業にするほどの能力がないため、この企業にしかないような中小企業を立ち上げられたら素敵だと思う。
64	3	1	1	何をしたいかと聞かれてもまだ何も考えていないしと言えないのだが、「起業」という響きに対するあの感じのようなものを私は抱いている。社員全員を食わせてやらなくという責任感や成句に対するハードルの高さはなんとなくわかっているつもりだが、それを上回る「面白そう感」を感じる。成功も失敗もすべて自分の力のあらわれであるし、ある種の自分を試してみたいという気持ちなのかもしれない。昔から人ができないといっていたことを何とかして達成してやろうとする性格だったためコツコツしないといけないことでも一度やると決めたら全力で取り組んできた。今も体育会に身を置いているが、練習量なんかでは部の中では一番の自信があるし真剣に取り組んでいる自信がある。少し脱線してしまっただが、「起業」は自分の考え、行動がすべて反映されるイメージで、社会に対する挑戦のようなイメージがあるので、やってやりたい、驚かしてやりたいというような思いから起業してみたいと思う。
71	3	1	1	起業したころには、必ず小さな企業であるが、現在の日本には中小企業が働きやすい環境が整っており、十分に活躍できる可能性があると考えている。この講義では学んだ世界大戦前後の中小企業をとりまく環境と現在の環境では大きく異なっており、日本は中小企業に支えられている。起業し、大企業を支え、日本を支えたいと考える。
72	3	1	1	私は現在、誰も思っていないであろうアイデアをスマートフォンのメモのところに残しており、将来的に絶対に特許を取れる自信がある。なのでその特許が取れれば起業したいと思うので、まだ半分くらいの気持ちで考えている。私は絶対に成功するビジョンができています。
78	3	2	1	なぜなら、私は商学・経営学について3年間学んできたからです。普段、生活していると「私だったらこうするのに」ということや「この企業のマーケティングはすばらしい」と感じるということがよくあります。そのため私もさらに多くの企業について学び、自分の企業について学びたいと考えています。具体的には30代で起業して、上場させたいと考えています。
79	3	2	1	日本にはまだ女性起業家が少ないという背景がある。けれどもこれからサービス業（例えば育児サービス等）などで女性が活躍できる場は多く存在すると私は考えます。育児などは、女性がたずさわる部分も多く、男性にはない視点も大切になってくると思います。現在、待機児童が多く存在するこの日本で、まだまだ女性の社会進出や保育園設置の困難さなどから育児サービスは必要であると考えます。育児を一度体験した女性がこのような育児サービスを起業し、始めることは、社会に対して、また、起業するという点にハードルを感じている人々にとっても大きな影響をもたらすであろうと思います。これは、一例にすぎませんが、私は個人として女性の働きやすい、生きやすい環境を、同じ悩みを持った女性起業家が作ってあげることで、そして、そのような起業家が増えることで、日本経済がさらなる発展を遂げ、より暮らしやすい生活をより多くの人が送れること、社会に対して、自分が生きる意味と責任を感じたいと願っているからです。
90	3	1	1	一般的にはやはり中小企業を自ら起業するよりも大手の企業に入った方が安定して収入も仕事も得ることができる。むしろ起業することは大きなリスクがある。しかし私はそのリスクがあっても構わないと考える。なぜなら、与えられた仕事ではなく、自分自身でどうすれば自分が立ち上げる企業を成功させることができるのかを考え、人々を引き付けるような何かを生み出し、最初小さい企業でも少しずつ大きくなり最後には大企業と並ぶくらいのものでまたその上に行ける可能性があるからです。そうなった時には自分が企業の先頭となって企業、従業員を引っ張っていくことができるかもしれない。上から与えられるだけの仕事ではなく、自ら日本に何か足りていないのかやどういったものが求められているのかを1つの分野に特化して考え挑戦していくことができるということに起業の良さを感じた。なので私は起業したいと思った。

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
91	3	2	1	理由は主に2つあります。1つ目はもし私が仮にどこかの企業へ将来、就職したとして、そこは本当に自分の好きなことややりたかったことを好きなだけできるようなところなのかとは限らないからです。自分の好きなことをやれないまま淡々と仕事をし、嫌々やっていくなら、いっそのこと何か新しいビジネスを創造して失敗してもいいから冒険を一度くらいはしてみたいと思います。もちろん資金面だけでなくアイデア面など大変なことは多々あると思いますが、いろいろなアイデアを浮かべて試行錯誤する時間はとても魅力的な時間だと思うので。2つ目は、自分の精神的成長につながると思うからです。先ほども述べたようにもちろん成功するとは限らないし、リスクはとてむたくさんある事です。しかしそれ乗り越えるために考えたり行動を起こしてみたりする過程が、自分をますます成長させてくれると感じました。他社との競合など、打ち勝つためにはどうすればいいのか、そういうことを考えるのが成長につながると思います。
101	3	1	1	大企業だから安心というのは今はない。その上で、中小企業と大企業とを比較すると自分の努力がより、成果に表れやすいのは中小企業だと思うからだ。私は将来、自ら会社を経営し、会計人としてさまざまな中小企業の経営者のマネジメントをサポートしたいと思っている。
102	3	2	1	アルバイトでのパトリダーの経験やサークルで副代表をつとめた経験でリーダーとはどうあるべきか、たくさん考えました。リーダー像が1つではないことも学びました。逆に今、新しいバイト先で新人としていろいろなことを教わる立場に立って、「私ならこうする」とか「こういうリーダー像もあるのか」という発見もあっていい。昔の日本では1から組織を作ってみようというようになりました。また授業でマーケティングを学んでいくうちにマーケットインの商品はたくさんあるし、もちろん需要に合わせた商品開発も不可欠だと思うけど、見えない需要に焦点を当て、需要を創出していくプロダクトアウトにもとても惹かれました。まだまだ知識も具体性にも欠けていて、起業したいと考えています。
106	3	2	1	なぜなら起業をして成功するのはとても困難なことであり、また大きなリスクをも伴う。しかし、目の付け所や、今の日本社会を見つめ、何が求められているのかを考えると、大きな可能性が秘められていると思う。以前、ママ友をめぐるトラブルの相談役として起業した女性を取り上げられていた。彼女は、ママ友同士で起る数々の悩み事・相談を聞き、アドバイスするという形態で事業をしていて遠方からわざわざ出向く人も少なくないと言っていた。昔の日本ではありえないようなことだが、近大の日本ならではの商法であると思った。この例のように、目の付け所が大きく人生を変えることができ、「起業」というものは、大きな存在であると言える。すべてが成功するわけでもなく、ほとんどが失敗に終わるのは明らかであるが、自分の力をためすという面ではすばらしい経験にもなると思う。
107	3	1	1	私は飲食系で起業したいと考えており、また海外で始めたいと考えています。今の日本では「海外で大人気の○○」や「NYで人気の○○」などが日本に上陸した目や、物珍しさで人々は興味を持ちます。私はそこで日本人食（和食）無形文化遺産でも世界的に大注目されているので海外のニーズや見た目、味などを本来の良さを残しつつもアレンジして日本ではなくアメリカなどを中心に立ち上げ、初めは大変かもしれないけどそれを地道にコツコツと頑張れば、いつかそれを日本に持ち帰って日本でも展開できたらと考えています。そのためにも行動力、英語力、資格、アイデア、現地調査など他にもさまざまなことが必要になってくると考えているので今のうちにたくさん大学で学び、機会があれば留学などをしてイメージをして取組みたいと考えています。なので就職はこだわっていません。自分の限界まで挑戦を卒業後も続け、いつか夢（目標）を叶えたいです。
109	3	2	1	現代の日本では中小企業の活躍をよく目にする。大企業の歴史ある技術やノウハウはとても大事であるが、中小企業の革新的な技術もこれら非常に需要があると考えられる。また、大企業においては、収入等の面で安定しているが、自ら経営する自営業等では収入に安定性がない、などのリスクがあるイメージもある。そのため、私の考えとしては、最初は自分の活躍したい分野の職に勤めて、ある程度、知識等が身に付いたら自身で起業するということである。私の父が自営業で、それなりに稼げて、やりがいをもって仕事をしている姿を見ていることと理由としてはあるが、いつか将来的に機会があれば起業して、自分のペースで稼げて、やりがいのある仕事ができると思う。
111	3	1	1	私はゼミで「企業家精神」というものを学んでいます。そこでは唯我独尊みたいな企業家もいれば開りをサポートして、人をうまく利用する企業家もいることを知りました。そこで学ぶまでは、絶対的なリーダーシップ、専門的な知識がないと起業なんて到底出来るもんじゃないと考えていました。今学んでいる、鮎川義介という人は、井上馨や原房之助などの優れた血縁に恵まれたことにより、多大な援助をしてもらっていました。人柄も、どんな人に対しても自然体であるなどのユニークさもなかった。しかし、自分がやってみようとは何か、そのためにはどうが必要かと考える力だけは、どの本を読んでも読み取れました。必要なことがわかれば、そこに向かって全力でやるという努力が見られました。起業するためにはやはりそれなりの資本や知識が必要となる、しかし成功している企業家の多くは目的意識がしっかりしている人ばかりである。自分も消費財（シャンプー等）の業界に興味があり、その業界で何がしたいのかという目的を持つことができれば、起業するというチャレンジをしてみたいです。
114	3	1	1	僕は今まで起業・創業したことが一度もないが、スマホアプリの「メルカリ」という自分のものを出品してお金を儲けるといういわば起業に近いことを身近に体験して企業というものを体験してみたいと感じた。もちろん「メルカリ」=「起業」というほど考えは甘くないのはわかっているが、興味がある、やってみようとは確実に思っている。
128	3	1	1	私は企業家研究の分野のゼミに所属している。そこで企業家や経営者が成功するためには、さまざまな必要能力があると知り、その中でも「人間性」が一番重要だとゼミを通して学んだ。もちろん経営テクニックや視野の広さなど他にも必要なものはある。しかし、人間性がしっかりとしていないと人はついてこない、会社は大きくならないのだ。私は大きな会社を建てたい、たくさんお金を稼ぎたい、人気者になりたいといった理由で起業したいわけではない。すばらしい人間性を備えたいからこそ起業したいのだ。また沢沢栄一や大原孫三郎のように私利私欲にとらわれず、社会貢献や人のためになることもしていきたい。偉大な経営者たちはみな、人を思い動いてきた。そういう人達は濡れなく、人々の心に残り、名を刻み続けたのだ。私はそのようになりたいと思ったから起業したいと考える。
130	3	1	1	働くということはもちろん収入を得て生活していくための手段ではあるが、根本としては社会に奉仕しているということにつながっていると考える。しかし現在大企業で働く上で大きな組織の中で働くことで社会に奉仕しているという実感を得ることは難しいであろう。自分が起業・創業することによって事実社会に与える影響というのは非常に大きいと考える。またインターネットが普及し、世界でボーダーレスが進む中でビジネスの可能性は広がり、また社会に与える影響も大きくなる。例えば世界にビジネスを広げることで雇用を増やし、貧困などの問題にもアプローチできる可能性もある。以上のように社会に大きな影響を与えられるという点で起業・創業したいと思う。
134	3	1	1	その理由は私が今ゼミで研究している経営組織とソーシャル・イノベーションというテーマの実践になるからである。自らが代表となって組織をマネジメントすることと利益の追求だけでなく、何か社会に貢献できるようなことがしたいとも考えているからである。私は実際、大企業ももちろんであるが、中小企業こそ日本の経済を支えていると思う。したがって私はその役割を担うような企業を自分で創設してみたいと思う。
141	3	1	1	今、日本の企業数は300万社を超え、そのうち99.7%が中小企業で占めている。この中から自分にとってふさわしい企業を選び出すことは至難であり、大変な時間を必要とする。しかし日本の大学生は在学中に就職活動を行うのが慣習となっており、できるだけ若い人材を欲する企業も存在し、この傾向は続くだろう。このように就職活動には時間的制約があり、このために名が知れた大企業には応募者が集まるのではないだろうか。私は時間が許すのであれば、中小企業を綿密に調べ上げたうえでよいと思う企業に就職したい。だが時間は限られており、それが難しいのであれば、自分がしたいことを追求すべくために起業も選択肢になるのではないかと考えている。
144	3	2	1	なぜなら自分が作ったものが市場に出回り、それを必要としてくれる人がいるならうれいからである。起業・創業することとは、相当な気持ちがあるものだし、もしかしら起業できたとしてもすぐに倒産する恐れもある。しかし自分で会社を起こすことで、それが何百年も続くものとなればそれほど幸せなことはないと考える。そして私の会社を必要としてくれる人がいるならば最高の幸せだと思うからだ。

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
147	3	2	1	現在、日本では男女平等が叫ばれているとは言え、女性は出産や育児などに伴い、一定期間ビジネス社会から離れることを余儀なくされる場合があると私は思います。その期間に何が起きているのか、一旦離れた後再び会社に戻り、満足する仕事ができるのか、大半の女性は不安に感じているのではないのでしょうか。私は女性が女性らしく、出産・育児なども不安なく行え、生き生きと仕事ができる会社を起業したいと考えます。女性ならではの視点を活かした飲食店、教育、サービス業など、具体的にはまだ考えられていませんが、より多くの人が快適にあまりストレスなく過ごせる社会のために貢献できたらいいなと考えます。
151	3	1	1	なぜなら起業というのはすばらしいことだと考えるからだ。ビジネスは社会に対して、価値を生み出す、対価として利益を得ることで、それだけで社会に貢献できると感じる。また、今、私たち人間が非常に便利で、安心した生活が送れるのは先代の方々の向上心があったからで、その方々の起業により、今の日本があると思うのだ。そして現代では、すべての分野においてネットというものが重要になってきていて、公式LINEやツイッターを活用する企業も多くなっている。そこで新しく活躍しているネット上では、確実にビジネスチャンスがあり、ネットの分野で価値を生み出すことは可能だと考える。よって起業することは可能であり、良いことなので私は起業したいと考える。
165	4	2	1	私の父親は現在、女性の服・ファッション関係の自営業を営んでいる。昔は、ある服飾関係の会社に勤めていたが、その会社をたたむとなった時に会社の社長に力を貸してもらい、夢だった自分の会社を立ち上げたそう。勤めていた会社のノウハウもあって、順調に業績を伸ばし、会社を大きくしていったそうで、そんな父親の働いている姿や、会社での話を聞いていた時、父親がとても輝いて見え、私も起業して父親のような男になりたいと思った。
166	4	2	1	私はアパレル業界に興味があり、このような服でこのようなデザインだったらいいのに、売れるのではないかと買い物しているとき、しばしば考える。昔から好きなことに対してはほとんど興味を持ち、調べたりしている。そのためいつか起業・創業して若い世代の人が好む服を作れたらと思うと幸せである。しかし、そのための知識はまだ不十分のためアパレル業界で働いて経験を積んでいつか起業できたらと考える。
172	4	1	1	その理由は3つある。1つ目は、毎日同じ仕事を指示されて行うことを苦痛に感じるからだ。これは私が高校生だった時のサラリーマン・従業員に対するイメージである。それゆえに、起業か、あるいは昇進によって経営者かそれに準ずる役職になりたいと考えている。2つ目は10年間続いているマウンテンバイク競技の普及の一端を担いたいからである。私がプロショップで整備やテクニクを教わったように、将来の中高生競技者にかかる彼らの親の負担を減らすような業界のシステムを作りたくて考えていて、そのためにはいつか起業してショップのオープン展開をするこの視界に入れる必要がある。3つ目は、所得税より法人税の方が税率が低く、現在は株式会社設立が比較的容易だからである。書類上の年収額よりも実際の生活の水準を大切にしたいので節税も兼ねて起業という選択肢を選びたいと考えている。以上3つの理由から私は将来起業したいと考えている。
175	4	1	1	私は日本の経済をより豊かにしたいという思いがあり、その中で、人々の生活の基盤を根底から変えるようなビジネスをしたいと考えている。そのためには、今ある生活の当たり前を変えなければならない。常に市場におけるニーズに敏感になる必要がある。AppleのiPhoneがガラケーからスマホという新しい基盤を形成したように、日本の今後の成長に向けて行動に移すためには、組織の中では、自分の意志が通らず、それができたとしても柔軟性にかけるため、自分自身で想起する方が効率的であると考えている。
176	4	1	1	私は今、就職活動をしており、IT業界を目指しています。今まさに急成長しているIT業に身を置き、今はまだない、新たなIT(サービス、商品)等を、社会に送り出し、人々の生活を便利にしていきたいからです。そのために一度、起業に入り、スキル、情報、コネクション、経営等を学び、30歳には起業したいと考えています。なぜIT業界かという点、製造メーカーと違い、在庫を抱えるリスクがなく、アイデア一つで社会に大きな影響を与えることができ、自らの手で、社会に貢献できるモノを作り、すべての人々に認められる会社を作りたいと思っています。
182	4	1	1	今はまだ学生で知識も経験も全くないのですが、自分の働きたい会社に入り、いろいろな人と接し、いろいろなことを体験し、本当に自分が興味を持ち、やりたいことを何かを見つけて、将来的には、自分の力でゼロから何かを作りたいと思います。やはり起業・創業にあたっては、社会のニーズに目をつけ、それに応える形で新しいこと挑戦することだと思いますので、常に社会の流れにはアンテナをはっていきたくと思っています。
183	4	1	1	将来、人には独立し成り上がる力が不可欠だと考えるからだ。その力を持ち、自分で起業することで、未来を生き抜き、そしてよりよい社会の実現を目指すことが求められるだろうし、私はそう生きていきたい。理由は2つある。1つは、現在就職活動をしていて感じる、日本の未来の不安定さである。これからの日本は超少子高齢化社会が進み、年金問題、労働力不足など、付随する問題が多く発生するとデータが出ている。また都市と地方の二極化が進むこと、日本を取り巻く外国との関係問題(特にTPPなど)など、未来のことはわからないが、直面する問題が多いことは確かである。そんななか、企業の一社員で私は何ができるだろう。自分の意志が影響されない社内で、日本の未来をただ見ているだけではないか。それが嫌だから独立する力をつけ、自らの考えで社会に働きかけられるように独立したいと考える。2つ目は、今ある企業が永遠に存在するなんてわからないからだ。それなら自分で会社をつくって、自分の考えでビジネスを行うほうがやりがいを感じつつ、自らの企業を存在させ続けようという考えで考えている。今シャープの経営危機、昔前まで有力企業と言われた東京電力の衰退など、今ある企業が未来も輝き続けることは簡単ではないのだ。会社の中で、社会のためにがんばる。そして企業を大きくさせて、存在させ続けるためにがんばるというのも、もちろん大事だし魅力もある。でもどうせ同じことをやらねばならないなら、本当に自分のやりたいと思うことを自分がトップでできる環境の方が楽しいし、やりがいを感じることができるのではないだろうか。以上、2つの理由から、自分に力をつけ将来は独立したいと私は考える。
187	4	1	1	理由は、後世に残るような活躍をして、日本経済に大きな影響を与えたいと考えているからです。その近道として経営者になることが一番の近道であると考えたからです。アメリカなどでは、さまざまなベンチャー企業が出てきて、世界的な企業となり、世界経済を今までリードしてきています。日本はアジアをリードする責任があり、私は日本人として、永続的な経済発展に貢献したいと思っています。中小企業基本法により、サポート体制は整ったものの、未だに十分であるとは言えないのではないのでしょうか。アメリカのような金融体制を構築することが、私は日本経済の発展・中小企業の発展を促進すると考えています。日本の近代化も中小企業によって支えられてきて、世界経済が低迷している今こそ、自ら立ち上がり、日本からアジアへ、世界へ影響力を強めるチャンスであると考えています。
189	4	1	1	私は就職活動をおして、業界にとらわれず、業種・業界の垣根を超えた考え方をもち、全体最適で仕事をしたいと考えています。ビジネスチャンスというものは、全体最適で物事を考えたほうが見つけやすいと思う。業界に縛られていてはなかなか見つからないと思います。そのなかで私は承認欲求が強いため、何か革新的なものを生み出すことで、人に認められたと考えています。また、プライドも人より高いため、将来的には経営する側にまわりたいということもあって、起業という選択肢は常に頭の中にあります。
194	4	1	1	なぜなら、父は経営者として写真屋を営んでいるからである。自営業として成功してきた父の姿を幼い頃から見てきたことがきっかけである。昨今の社会経済では起業した人のほとんどが失敗するというのが現状である。しかし、父の存在を超えたい私は、経営者としてのノウハウを身につけたいと考えている。そのため、就職活動において、経営ノウハウを学べる会社、他企業とのネットワーク、人との関係を深められる会社に就職し、自己実現を達成したいと考える。社会が求めるニーズに対していち早くキャッチできる人間になることが目標です。
195	4	1	1	理由としては、将来中小企業診断士としての独立を考えているからです。私は昨年中小企業診断士の試験に合格し、その実務補習として実際に中小企業を訪問し、診断業務を経験しました。インターシップなどで大企業の働き方のイメージは少し持っていたのですが、中小企業の現場の声を実際に聞いてみて、大企業と中小企業との違いを痛感しました。診断業務をつうじて、中小企業は工夫次第でさらに成長することができると思い、その支援を行う人間になりたいと考えました。大学卒業後は就職し、自らの専門性を深めつつ、将来的には独立して起業・創業したいと考えています。

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
199	4	1	1	私は高校の頃からずっと起業したいと考えていました。今、社会には何が必要なのか。もっと人々の生活をよくするためには自分は何をすればいいかを考えてきました。私たちの世代は、今持っている金額よりも少なくなってくるか、あるいはもたえないなどの年金トラブルにおそわれるなど、税金が上がると、国に支払うお金が高くなっているにもかかわらず、国民1人あたりの賃金は減少しています。私はいずれ今までの常識というものが、数年後には必ずなくなるであろうと考えています。1人が2つの職を持つ時代が必ずくるのではないかと予想しています。なので、まずは広範囲で社会に貢献できるベンチャー企業を創りたいと考えています。まだ実行はしていませんが、大学2年生の頃からビジネスを学んでいる最中で、大学を卒業すれば、カンボジアへ行って土地開発の仕事を手伝い経営を学ぶつもりです。
201	4	1	1	私自身起業・創業してみたいという気持ちはあります。それは自身の夢の実現のためであるといえます。具体的には、自らつくったサッカーチームを国際的企業として世界で戦っていききたいという夢を持っているからです。しかし、現在、起業・創業のためのノウハウや知識、アイデアといったものがなく、具体的な手順がわからないため、まずは一企業の社員として働こうと思っているところです。それがたとえ他業種であったとしても、働くということがどういうものであるのかを知ることができ、また違った視点を与えてくれるのではないかと思います。
202	4	2	1	私は起業したいと考えている。しかし、今すぐ日本というところから、日本は中小企業が支えているといっても過言ではない割に、世間的にはまだまだ景気に左右され、不安定などという問題点がよく注目され、中小企業ならではの良さへの理解が深まっていないし、また失敗し、倒産してしまったときのリスクが大きくと感じる。自己破産という手段をとると、たちまち周囲や社会からの信用も失い、再チャレンジがしにくい環境であると考えます。今後大企業が公的資金を投入されるように、中小企業にももっと明確な補助であったり、中小企業こそが大切だと言えるくらいの意識改革がないと私は他者も自信も起業したいという考えがあっても、できないのではないかと思います。
204	4	1	1	理由は以下の3つです。1つは、自分の好きなことをできる手段として、起業がもっとも適しているということです。私は過去を振り返っても、「モノを創る」とこと、そのための「組織を創る」ことが最高に大好きでした。小学校の学芸会で創ったコントから、大学に入ってから行った学外活動まで、常にその2つができることを生きる喜びとしてきました。よって起業し、プロダクトやサービス、ソリューションを生み出し、同時に強い会社組織を創ることが自分にとっておっとも快楽を感じることが可能なのです。2つは、自身の性格です。私はアイデアや意見はフラットなものであると考えます。社長とか部長とか、誰が言ったかは重要ではないと思っています。しかし、就職活動やインターンシップでアルバイト等を経て感じるのは、一般的な企業はそういう体質ではほど遠いということです。そのため、自分で会社を創ることで、年齢や肩書にとらわれない、フラットな企業文化を生み出したいと思っています。最後の理由は、自分の根底にある価値観です。私は難しいことはチャレンジするのが大好きです。また仲間の時間を頂き、困難に立ち向かうときのドキドキはたまりません。加えて、将来こういった仲間の雇用を支える、という責任感私は興奮を覚えます。自分自身のためではなく、部下(仲間)の家族まで乗せた船のキャプテンをできることがたまたまなく気持ちよいのです。上記の理由により、卒業後10年以内には会社を興そうと考えています。
213	5	1	1	私はできるなら起業・創業したいと「思います」。しかしそれは例えば大学を卒業した直後とかではなくて、企業に入社し、仕事のノウハウを直接学んでからが良いと考えています。なぜなら近年アベノミクス等で景気が上向いており、どちらかと言えば明るい将来が見えている点と、株式会社など昔に比べて起業・創業の際にかかるコストが少なくなっている点があります。何より、自分が創業者・社長となって、会社の決まりごとや給与水準など任意で決定できることが大きいのです。しかし、起業・創業する、つまり「会社をつくる」にはそれなりの責任が伴います。会社の倒産やそれによる借金などは想像以上のプレッシャーであったり責任だと思えます。そこで私はまずは企業に入社し、あらゆる社会的ルールや知識を身をもって体感し、ある程度ノウハウを積んだうえで、起業・創業したいと思っています。
214	5	1	1	理由は、欧米とは違う地域密着型という形で成長していった、日本の企業を作りたいからです。現在徐々に日本の企業は欧米化しつつあり、株主至上の大量生産方式になっていっていると感じています。地域のニーズに対応し、売場所にあった商品を作れるような企業を作ってみたいという気持ちがあります。
216	5	1	1	ただ、これは今の話ではなく、将来における話です。なぜ起業したいのかというと、自分の力で日本に貢献したいという思いと、会社に入ったとしたら、自分のイメージしている働き方が多少は違ってくるはずですが、もし自分が起業したら、そのミス matches がなくとも思ったからです。ただとても苦勞することが多いと思いますが、自分が持っている信念、考えが仕事に反映させたいからです。自分とは違った信念で働きたいからです。
217	5	1	1	理由として会社が企業、中小企業等の規模にかかわらず、会社にもたれかかるのは危険な時代だからだと考えるからです。10年前まで業界のトップを走っていたシャープ等が落ちていくのをニュース等で目にする、会社は10年もあるれば変わってしまうものであり、依存するのは危険である。タイミングを見て、起業・転職等のスキルを身につけておくことが大事だと考え、起業・創業はキャリアの中での選択肢の1つです。
221	6	1	1	現在「終身雇用」や「年功序列」といった日本特有の三種の神器が失われていく日本において、1つの働き方にこだわるのは視野が狭いと考えるからです。自身の頭で働き方を考え、通年的に信じられてきた「雇用される」という立場から、「雇用する」という立場に身を置きたいと考えています。
222	5	1	1	なぜなら今現在、生活していて不便だな、こんなサービスがあったらいいのになという場面に出会ったとき、会社を設立し、今まで誰も見たことのないサービスを提供して、人々を楽しませることができるようにもしたいからだ。また、自分自身でも世間にも今まで以上に興味を持つことができるように思われるので、起業・創業には関心がある。
223	8	1	1	生きていくうえで仕事は何をなりわいとしていくかであって、必ずしも組織に属さなくてもいいと思うからです。加えて好きなことで起業できれば人生が豊かになるのではないかと考えたからです。
228	4	1	1	日本国内の企業の大部分を中小企業・ベンチャー企業が占めている。そのような規模が小さい企業を持つ社会的使命や技術、能力はすばらしいものである。非常に市場が狭く、誰も知らないような事業を行う企業は数多く存在し、国民の生活においてなくてはならない役割を果たしている。私は現在就職活動中であり、多くの企業の説明会に足を運び、事業やサービスの内容を見てきた。そこで私が感じたことは、まだ社会には存在しない便利なサービスをつくり出し、起業してみたいということだ。「社会に貢献する」とは聞きなれた言葉であり、誰もが口にできる言葉である。今あるサービスを発展させることや拡大することも、当然すばらしいことであるが、私はまだ社会に眠る潜在しているニーズに応えることで、その言葉を本当の意味で実現できると考えている。規模は小さくとも、価値あるサービスを提供することでやりがいを感じることもでき、日本を支えることができる。本講義の「中小企業論」や私が所属する学部で学んだ「ベンチャー政策」で聞いたことを参考にし、さらに深めることで、私は将来起業してみたいと思う。
229	4	1	1	以前と比べて起業・創業のハードルは低くなってきているので、私は起業・創業には肯定的に考えている。地方団体や公共機関などがインキュベーションによって、金銭的な支援から創業のためのノウハウ、経営基盤の強化などさまざまなサポートを受けることができるため、数十年前の起業・創業と比べて機会費用は非常に低くなっており、開業者の利益が大きくなっているため、起業・創業はぜひチャレンジするべきであると考えている。
232	4	2	1	中小の後押しを政府がしてくれるということ、やはり起業してみたいと思う。祖父が起業家で話を聞いたことがあるが、お金の支援はだいぶ助かったし、頑張ろうとさらに思えるようになったと言っていた。やはり一番の問題はお金なのかと思いました。
234	3	1	1	1. 整備されている法制度。さまざまな分野における法制度の整備が、起業にとっての保証であり、手続きおよび紛争時における解決方法を提供している。2. 物流等の発達。安心かつ迅速な物流は、起業の基本の支えとなる(飲食業)。3. 円安。円安による海外からの投資が期待できる(金融業)。4. 豊か自然。日本人も知らない自然風景を売りに、海外向けの観光開発の起業は可能だ。大手などの制約を受けずに客の要望に合わせてルートを開発。5. Made in Japan. 日本で起業するのに最大のメリットであり、それによる信頼度はビジネスを成功させる。

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
235	3	1	1	その理由は主に2つある。1つ目は、自分のルールでやりたいことを仕事でできるというのは、自分の仕事へのやりがいやモチベーションにつながるかと考えられるからである。もちろん何もない状態からのスタートなので、最初はやりたいことをすべてできるとは限らない。しかし、その苦労も、自分の成長へとつながると思うし、苦労したぶん、その仕事へのかける思いや気持ちが強くなっていき、結果としてその仕事へのやりがいやモチベーションが大きくなると思うからである。2つ目は、大企業などのルールがひかれた人生を歩みたくないからである。もちろん安定や高収入を求めて大企業や公務員を選択する人は多いだろう。その方が親も安心するだろうし、起業には倒産のリスクもあるので、何より自分の家庭が安全になる。しかし、一度きりの人生、自分の力で何かを成し遂げたいので、私は起業したいと考える。
238	3	1	1	経済雑誌で「将来的に日本は大企業はなくなるであろう」と言っているコラムがあった。私は日本だけでなく世界的にもそうなっていくであろうと思う。1950年代の高度成長期に求められる企業と、現在求められる企業は異なっている。同じことは人材にも言えると考えます。これからはたんに就社(大企業・一流企業であっても)したとしても、従業員が1人1人バンチャー・マインドをもって仕事に臨むことが必要であると思います。就社し、安心するのでなく、さらなるビジネスチャンスを常に狙い、仕事をしていくことがこれからのビジネスパーソンに求められると思うので、起業してみたいです。
1	2	1	2	私は大学に入学する際、商学部であるならば経営や物流のことを学び、それを活かし、将来は企業・創業も社会に出るからの選択としては悪くないと安易な考えを持っていました。私とその考えを甘いと感じたのは勉学が想像以上に難しくなったこともあるがそれ以上に上に立つものが背負うプレッシャーに耐えることができないと感じたからです。たった1人くらい企業を辞めさせたところで企業になんら影響はないはずですが、しかしその家族は収入源がなくなり生活が厳しくなり、どん底へと突き落とされてしまいます。企業が危くなりどうしても従業員を減らさなくてはならない状況になった時、心を鬼にすることができないであろうと感じた私は「思わない」を選択させていただきました。
2	2	1	2	なぜなら現代社会のほとんどの産業分野は飽和状態にあり、そのなかで生き残るのが難しいと考えるからです。また新たな産業分野を開拓するとしても、資金が必要であったり、リスクが高いと感じます。私は既存の企業に勤め、そういった新たな分野に挑戦する企業をサポートしたいと思っています。
3	2	1	2	理由は安定性がないためである。近年、著しくIT化が進み、誰もがスマホを持つ時代となった。もちろん10年前には今日のようなことになっているとは考えもしなかっただろう。たった10年前には考えもつかなかった業界が発達し、主要となっていて、今の世の中を見て私が企業をしたとしても、その業界や内容が10年、20年後には必要とされていないかもしれない。今現在業界が主要となっているかもしれない。そんな世の中なのだ。そんな世の中で常に「今」必要とされているニーズにこたえ、そのために変わっていくのは安定性がなく、つらいだろう。そこで一生に起業、経営に費やしたくないので起業・創業をしたとは思わない。
4	2	1	2	私の実家は自営業であり、自営業の良きところ、大変なところなど小さい頃から見ているのでわかる。父親も僕たちに継がせる気はないと言っている。自営業は自分が休みたければ、休むことはできる。これはサラリーマンの人たちから考えたらどれだけうらやましがられるのか。しかしその分、安定した収入を得られるわけではない。そこが一番の難的だと考える。大企業はやはり倒産したりすることがはばかない。やはり起業・創業を考えると、しようとする人は少ない。起業する会社よりも廃業になる会社の方が多く今の日本、自分の能力からすると会社を起業しようと思ったことはない。もし事業に失敗してからのことを考えると、怖くて仕方ないのである。
6	2	2	2	開業することで企業数が増え、経済や社会の活性化につながると思います。実際、1999年の中小企業基本法でも「創業・経営革新」が掲げられたものの、創業数を増やすことは難しく、既存の中小企業が新しい分野に挑戦する、いわゆる「第二の創業」を支援することが主になったように、起業することは非常に難しいと思います。また、日本人の特徴であるかもしれませんが、廃業を恐れることで起業に踏み出すことができないという理由もあります。廃業のイメージは、信頼を失う、自己破産などであり、そのリスクを自分で負うことができないという理由もインキュベーションなど、開業促進のシステムもありますが、初期費用などへの不安、日本政府からの支援への不安もあり、起業したいとは思いません。
7	2	1	2	なぜならば、起業するには知識や知恵だけではできないからだ。起業するということは人の先頭に立つ、また、人とは違う考えを持ち、人よりも良い発想力と創造力が必要になってくると私は考える。人のトップに立つことはそれだけの責任を担っていく。しかし逆に考えてみると人より経験ができ、企業の知識だけでなく人としての人間性も磨かれていくに違いない。
8	2	1	2	なぜなら、私には先を見通して判断をすることがとても怖いからです。リスクをなるべく背負いたくないと思っています。誰かの下で働いている方が、多少受け身で働いていてもやっていけると思っているからです。何かがあった時、すべて自分の責任になってしまうのは嫌です。
19	3	1	2	その理由は、起業するには資金がないと始まらない。私の家は裕福ではないので借金をしないといけないからリスクを背負うことになるためだ。サラリーマンもリストラなどはあるが、起業するリスクに比べれば少ない方だ。私は安定した暮らしを望んでいるからだ。
21	3	1	2	そのように考える理由としては、そこまでの大きいリスクを背負うことが厳しいと考えているからだ。具体的には資本金を自分で準備することができないため、当然、銀行等から融資してもらう必要がある。しかし、もしも事業に失敗して負債を抱えてしまうことを考えるととてもリスクは大きい。それに比べ、就職活動をして大企業に勤めると、莫大なお金でその得ることはないが、リスクという面からは比較的安定しているといえる。そのため私は起業・創業したいと思わない。
23	3	2	2	そう思う理由は大きく分けて2つあります。まず1つ目に起業・創業する理由がないからです。ゼロから事業を起こすのは大変なこと、時間も体力も精神力も(場合によってはお金も)使うことになります。そうまでして起業・創業する理由(すばらしいと思えるビジネスモデルを持っているとか、起業することでしか伝えられないニュースや解決できない問題を見つけたとか)を私は持っていません。逆に言えば、そういった理由があれば、起業・創業も選択肢の1つになるのかもしれませんが、2つ目は、人の上に立つというのは今の私の実力では難しいと思うからです。これまで、部活で部長をしたり、中高と生徒会をやったりと、何かと人の上に立つ経験が多かったのですが、リーダーとしてあまりに未熟だと感じています。今、ゼミでリーダーシップについて学びながら、より良いリーダーを目指してサークルで実践中ですが、人の上に立つ、ましてや経営者としてやっていくような自信はまだありません。以上の2つが私が起業・創業したいとは思わない理由です。
24	3	1	2	自分には人をまとめる能力が少し欠けており、企業するということはその企業のトップになるということ自分で向いてないと思った。起業しなくても普通に企業で働いて企業の業績に貢献する方が自分に合っていると思う。指示をする側ではなく、指示を受けて行動する方が自分に向いていると思ったからである。
25	3	1	2	なぜなら起業・創業するには、それだけの条件がいくつもあり、もちろん資金などがありますが、一番は起業して自ら考えて行動していくことが大事だと思います。私にはまだそういった能力はないと思うからです。また、そういった能力というの、少し頑張ったからと言って1、2年で備わるものではないと考えます。それに加え、人の上に立つ人間となつて引継ぎしていく人としての器の大きさも必要だと考えます。私は小さい頃から現在に至るまで野球を続けてきましたがキャプテンやリーダーなどは任せられたことがありません。このままではいけないとも思っているのですが、なかなか解決できずにいます。このことから、周りから見ても私が人の上に立つにふさわしい人間だと、あまり思われていないことがわかります。ですが、私は特に怒られることもなく野球人生を過ごしてきたので、与えられた仕事をしっかりとこなしていける人間、つまり当たり前のことを当たり前でできる人間だという自負はあるので、普通に就職して与えられた仕事を必死に頑張りたいと思います。

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
29	3	1	2	なぜならこれらに関する知識が、ほぼないからだ。起業に成功し、大金持ちになったという話をテレビなどでよく目にするが、失敗し、借金を背負ったという話も同様に聞く。知識を身に付け、成功する自信を持つことができれば起業・創業してみたいと思うかもしれない。ただ、今のところは、リスクの大きなものであり、安定思考の自分には、向いていないと思うため、このような結論となった。
32	3	1	2	なぜなら、個人的な将来の「安定」を求めているからです。定年になるまで大企業に勤めて、安定した家庭を築いていきたいという願望があります。しかし、不況のうえに少子高齢化など、さまざまな深刻な問題を抱える日本で、新しいものづくりや起業していくことに関心が少ない私のような若者が多いということに問題意識を持っている。安定を求める若者が日本経済を下降させてしまうという悪循環を断ち切るために、新たな政策が必要となってくると、感じます。生産年齢人口がどんどんと減少していくなかで、私のような若者が問題意識を持つことが重要であると、改めて気づかされました。
33	3	1	2	経営のノウハウに関しては勉強すれば何とかなるかもしれないが、どことなく排他的で新しい参入者に門戸が大きく広げられているとはあまり思えない日本では、経営するにあたり必要な人脈が築きにくそうだから、このように考える。規模の大きさ云々ではなく、形にするまでの道のりが長そうというのが理由である。
36	3	2	2	起業・創業に関する知識も少なく、また既存の企業では成し遂げられないことで自分が挑戦したい課題にもぶつかっていないから、会計に関する知識を身に付けたり、世界を広い視野で見渡す機会が少ないことが上記のように考える理由であると考察します。
37	3	1	2	起業家には意欲や冒険心が必要ですがさらに何度失敗しても、再起してやるという不屈の精神が必要であると僕は思います。僕には、そこまでリスクを負って勝負するよりも、安定の道を選びたいという思いがあるのだから起業家には向いていないと思います。また、起業してまでも絶対にしたいと思えるようなことが見つからないというの理由の1つです。
38	3	1	2	私の性質として安定志向が強いということもあり、廃業のリスクを負ってまで起業したいとは思わない。また、現代社会において、多種多様なビジネスモデルが確立されており、よほどすばらしいアイデアが浮かばない限り、新規参入は難しいと感じている。さらに起業にかかる費用の調達も大きな課題である。このような理由から、私は企業・創業したいとは思わず、既存の企業で働きたいと思う。
39	3	2	2	慎重に物事を考える性格なので、リスクの大きさを考えると企業・創業はしようとは思わない。自ら上に立つことにもなるのでよほどの責任感と強い意志と高い問題解決力を持っていないと厳しいのではと思う。働くことを考えた時に、就職が真っ先に思い浮かぶので、そもそも自分には向いていないのではないだろうか考えた。
41	3	1	2	中小企業の特徴として、地域内にとどまり続ける傾向にある。これは地域外に出たいと思った時、いざ出てみるとうまくいかずに失敗することが多いため、地域内にとどまるのではないかと思う。また地域内だけではなく、地域外にも出てみて、新しいことを学んでみたいと考えている。したがって、自分が学びたいと思った時に足かせになってしまうのではないかと考えた。また、一組織のトップとして振舞わなければならない。自分には、それが、新しいことへチャレンジすることの邪魔になってしまうのではないかと思う。また、トップの人間はその部下たちの生活に責任を持たなければならない。しかし、私には他人の生活に対する責任など持てない。したがって起業・創業したいとは思わない。
42	3	2	2	第1には何か新しいことを0からつくり出すことがあまり好きではありません。1を2に、2を3にというように決められた仕事を順にこなしていくことを好む性格であるためです。第2に中小企業は以前と比べると改善が進んできたとはいえ、大企業と比べると、労働条件や賃金に差があります。将来、家庭を持ち、子育てをするのを望んでいるため、不安がある仕事や福利厚生がしっかりしていないと難しいです。また何より、授業中に先生がお話してくださったように、アメリカなどでは起業は失敗しても数がキャリアにつながります。一方で日本はいい会社に長く勤めることでキャリアにつながります。今の日本では昔に比べるとずいぶん改善されましたが、まだなお起業がしにくい社会だと考えます。そのため私は企業・創業したいと思いません。
46	3	2	2	リーダーになるということは全責任をおって働かなければならない。そんな責任感が私にはあるとは思えない。少しでも他人にミスがあると普通ではいられなくなるの目に見える。リーダーになるより、リーダーの存在を支えられるような器の大きい女性になりたいと思う。自らリーダーになるのではなく、他人をリーダーにしてあげたい。
53	3	2	2	なぜなら、今私は自分が立ち上げてやりたいことがないからである。起業することは、初め軌道に乗るまで、経営も大変だろうし、軌道に乗るかどうかの保証もない。起業したての頃は信頼もない。ならば、起業せずに就職する方が、私はよいと考えたからである。それならば、起業したての企業よりもほかの会社からの信頼も少しはあり、こちらの方が安定であると考えたからである。そのため、私は起業したいとは思わない。
55	3	1	2	理由として今のような不景気な世の中では起業しても成功する見込みがあまりないのと、もし仮に一度は成功しても自分の企業に他社にはないような技術などが無いと継続して利益を出し続けるのは難しいと考えるから。そのような技術があるのなら起業したいと思います。
59	3	2	2	中小企業は日本の発展に大きく貢献してきたり、大企業だけでなく、大企業を支える中小企業があって、初めて市場、経済、地域が動いていくということも中小企業論の学びを通して痛感した。しかし、依然として中小企業に対するバックアップや政策は不十分どころがあり、特に運営する上で必要不可欠な資金面など、起業する上でのリスクが大きく、不安である。また、起業時の事だけでなく、将来の事業計画、展望についても考えなければならないと思うが、厳しい経済状況を生き抜いていくには知識や経験などといった武器となるものが今の自分にはないから。
60	3	2	2	起業するためには、経営の仕方をまず知る必要があると思います。経営の仕方についての知識は全くないの難しいと思います。そして起業して成功するという保証はどこにもなく、生活が安定できるかわからないかと思っています。
61	3	2	2	なぜなら先頭をきって人を仕切っていく人間ではなく、そのような人のサポートにまわる人間のタイプだからです。日本ではモノをすくっていくことが多いと思います。食べ物であったりふくであったりたくさんあります。これらを他の国に回せたらいいのに、そのような事業はないのかと思うときがあります。自分で立ち上げたいと思うこともありますが、やはり先頭に立つことは自分には難しいことだと思っています。起業することは、日本人からすれば大きなリスクを負うように見えます。一般的には企業に入ることが安定で、日本人は安定を求めるからです。しかし、これから起業する人たちがもっと増え、チャレンジして失敗してもそれがマイナスではなくプラスに捉えられる日本になればいいと思います。
63	3	2	2	なぜなら、起業して3年つぶれてしまう企業が半年を超える中で勝ち残れる自信も技術もないから。今はよく、インターネットビジネスなど、学生デモある程度知識があれば、起業できるようになった。実際、私の周りにも起業した学生などはいるが、成功しているうらでは親からの援助がよく見られる。なにかと良いビジネスを思いついても資金がとても重要であることは何の知識もない私でも感じた。すべてのモノ、コトが多様化する中で起業することは、大変勇気がいることである。その勇気も、自身も資金も私にはない。
65	3	1	2	理由はまず第1に、起業後に失敗してしまうというような悪いイメージが強くなるからである。起業して失敗して会社が倒産して借金を抱えてしまう、というようなシナリオが頭の中に強くあるため、起業・創業したいとは思わない。また、今の知識では起業に際して、不十分すぎるのではないかと考える。例えば、会計知識、経営知識、さらには商法の知識、その他さまざまな法律などほとんどわからない。そのような私がかつた人の上に立つて、会社を経営していくようになるなんて無理だと思うし、もし起業するにしてもまだまだ必要な知識が足りないと感じる。また、起業してある程度には安定するとしても、環境の変化や他社との競合など外的要因によって経営状態が悪化することの方が多くに考えられる。そのリスクを負いながら生活をしていくよりは、私自身としては安定した企業で働いて生活する方が良いと思っている。また、シンプルな考えとしては、起業して社長になって一番上の立場になるということは荷が重いということがある。ある程度は人に従いながら働く、ということでもよいと考える。

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
66	3	1	2	私自身、全く起業したくないというわけではないのだが、これまで経験してきたことを通じて、自分は他社すなわちお客様の声が聞け、喜んだりしている顔が見えることのできる、より現場に近い仕事をしたいと思ったからである。確かに自分が指揮をとってどんどん新しいことに挑戦していくことは魅力的ではあるが、自分にとってやりがいを感じる事ができるのはより現場に近い場所で働くことだと思う。
68	3	1	2	私はこの講義を通じて、中小企業について以前より知識も増え、中小企業について考えさせられました。以前は就職するのなら名の知れた大企業が良いと思っていたが、少し中小企業もよいのではと思っています。しかし私は将来、大企業に入ればそれなりのスキル、知識が身に付き、自分自身の向上にもつながります。経済を動かすほどの、ビジネスをしたい私は、起業することで成功しても大企業ほどの大きな仕事はできないと思うので起業したいとは思いません。将来のしたいことを実現するためには起業するにつながらないと思い、「思わない」を選択した。
69	3	1	2	私が自分の生活に求めるのは「安定」である。起業・創業して会社を経営すれば金は多く手に入るかもしれない。しかし手に入らないかもしれない。起業・創業してもそのビジネスがうまくいくとは限らない。それはもちろん他の企業に就職したとしてもうまくいかはわからない。しかし自分で起業するよりは可能性は高いように思う。自分にその才能はないと思うからだ。そのような「かけ」にはでないとは思わない。また、自ら起業するには数々のやらねばならないことがある。その面倒くささを考えれば既存の企業に就職した方がとても楽だと思うからである。
70	3	2	2	理由はリスクが高いし、どのような分野でどのようなものを作ったり、サービスしたりするのかという発想が具体的にわいてこないで自分では難しいと思うから。
73	3	1	2	理由として、日本において起業するということが今でこそ徐々に増えてきていることかもしれませんが、それでもアメリカやヨーロッパと比べるとまだまだその数は少なく、そういった企業をするのに対しての土壌といったものがかわれていないように思いますし、日本という国はそういった何か新しいことをする人に対して厳しいように感じるからです。
74	3	1	2	理由はこれから大きく発展しそうな分野である IT 関連の事業の知識が乏しく、大きく成長できるとは考えにくいからである。
75	3	1	2	理由としては近年ベンチャーというのがどんどん増えてきているし、友達も最近創業しました。その中でも伸び率 200% などというかなりの成長率を誇る会社もありますが、自分はそれを 1% 位のベンチャーだけでと企業しています。大抵のベンチャーはある程度までは売上伸びるが、必ずぶつかる売上額の壁があると講演会で聞きました。そして壁にぶつかった多くの企業は衰退していくのです。その判断は経営者の腕にかかっていますが、自分は従業員の生活がかかる中でわざわざ高い壁にぶつかっていくとは思いません。悪く言えば、消極的、よく言えば安定志向。自分はそういうタイプであると自覚しているので、リスクを冒してまで創業したいとは思いません。
76	3	1	2	起業・創業にあたってはすぐれたビジネスモデルが必要であり、そうしなくてはならないのは今の私には難しいと感じるから。勉強不足なのもあるが、そもそも起業するにあたっての必要な手続きすらイメージがわからないのが現状である。もちろん、これからさまざまな経験を積んでいく中で、ビジネスになるようなことと巡り合うことができれば挑戦してみたいと思う。
77	3	1	2	起業・創業するには、さまざまなスキルや、あるいはすばらしい人間性が必要であると思う。まだまだ自分は未熟であり、人を引っ張っていくような力も有していないとは思えないので、起業したいとは思わない。しかし、今後の人生において、自分の力に自信がつけるときに試してみたいこともある。
80	3	1	2	そもそも私は自ら進んで新しいことに挑戦しようというチャレンジ精神がない。そしてもし失敗したら人生がすべて終わるのを感じ、より安定を好み性格であるので、私は今日、この問題が出されるまで一度も自分で起業・創業しようなんて考えたことがなかった。また私がこの中小企業論を受講した理由として地元での就職を望んでいるということも関係する。私は地元では完全なる田舎である。大企業と呼ばれるような企業はなく、中小企業がいくつあるという状態であり、私の就職先も必然的に中小企業になるだろうということでもその中小企業について少しでも知ろうという講義を受講したのである。受講する以前から感覚として中小企業の経営は大変で、身の回りの人を見てみると、決して楽ではないと感じていた。そしてこの講義で中小企業について学んでいるうちに、さまざまな困難がある中で中小企業を経営している人はすごいと尊敬するようになった。私はそんな尊敬できるような人物ではないし、地元で起すことはほぼ確定しているの、より良い環境で起業しようと思えることができる。
81	3	1	2	まず第一に起業に対するリスクが自分にとって大きなものであると考えるからである。起業して資本家層に転じるのが資本主義社会においては正しいのかもしれないが失敗した時に個人が負うダメージの大きさを考えると大企業の労働者として働くほうが今の私にとっては魅力的である。どちらかと言えばセカンドトップでプレインと物事を調整するタイプの人間ではないかと自分のことを捉えている。よって共同設立者がいる場合を除いて起業しようとは思わない。ただし将来においては起業・創業したいと思う。可能性はないとは言えないと思うからである。
82	3	2	2	どうしてもやりたいことがあって目標があるならば起業したいという思いが強いと思いますが、私は特にそのようなことがないから。もし、起業したとしても莫大な資金が必要になると思うし、失敗した時のことを考えるとなかなか起業したいとは思えません。その上、起業をしたら、何らかで最初から作り上げなければなりません。起業するのであれば、当たり前のことですが、私は作らけて行くよりも、もともとある組織の中で、決められたことをその制度に従ってこなす方が自分に合っていると思います。だから今の時点ではどうしても起業したいとは思えません。
83	3	1	2	なぜなら自分が起業してその企業がうまくいくビジョンが見えないからである。まず、自分自身が 0 から 1 にするよりも 1-10 にすることの方が向いていると思っており、もし起業したとしても、もともとある企業の後追いすることしかできないはずだからである。それではうまくいかないと思う。だからもし起業するならば 0 から 1 を生み出すのが得意なアイデアマンと協力してそのアイデアをふくらまし、複数人で起業するほうがよいかもしれない。
84	3	2	2	なぜなら、私には起業するだけのリーダーシップや力がないから。また、現代ではたとえ起業したとしてもうまく経営し、会社を存続させられることはとても難しくなっているからである。経営者になれば従業員の生活や人生も自分にかかると。会社を存続させられるかもわからない自分が他人の人生を左右してしまっはいけないから。
85	3	1	2	理由はまだまだ自分自身の視野がせまく、社会について理解できていないと感じるから。そして今後、起業するとしてもまずは普通に就業に就職をし、いろいろなことを学んでからすると思います。そうでなければ、社員の人をいきなり背負う気にはなれないです。自分の手腕で人の人生を左右するのは今の自分にはできません。
86	3	2	2	時代が変化すればニーズなども変化するので。
87	3	1	2	日本には世界を代表する大企業が多く存在し、さらにそれを支える中小企業も多く存在している。中小企業の成長は日本の経済にとっても大きなプラスになるため、政府はさまざまな取組でこれらの企業を支援する動きも出てきている。しかしまだまだベンチャー企業などが勝ち残るのは困難な時代だと思う。さらにこれからインキュベーションが進められ、起業しやすい社会になっていくのが注目したいがリスクを考えると、起業したいという発想にはなれていない。
93	3	1	2	今現在、私にはやりたい職業などがなく単純に起業しようという思いが生まれたいというイメージがあります。またそれ以外の理由は、日本の企業はどの業種もやはり大きな企業がシェアや売上の大半を占めているイメージがあって、参入の障壁が高く思うからです。例えば携帯では、au、ドコモ、ソフトバンク、車ではトヨタやホンダなど。そのような中で競争優位に立つことは難しく、また仮にそれらより参入障壁が低く競争も激しくない業種を見つけたとしても、1 から地位を確立するには相当な年月や発想力や資金が必要だと思います。それならば比較、自分の意見が通りやすく、ある程度地位の確立された企業に入り、少しずつ改善や改革などをしていった方がリスクが少なく、やりがいもあり変わらないかなと感じるからです。
95	3	1	2	一年以内に倒産するベンチャー企業が圧倒的に多いことと開業した際の収入が雇用者より低いからである。

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
96	3	1	2	なぜなら新たに参入していき、成長することができる市場が少なくなっているからです。例えば、トップブランドやトップシェアが突出していないシャンプー市場であっても、大手メーカーが上位を独占しています。最近名前を挙げているノシリコンシャンプーなんかにしても、CMにお金をかけ、少しだけ名前が挙がっているだけです。このようなことから起業してお金を生み出すには、まずお金が必要であり、成功するという可能性も授業で聞いたように少ないということなので私は起業・創業したいとは思いません。
97	3	2	2	2つの理由があります。1つは、私自身が1つの会社をうまくマネジメントする、十分な能力や知識、力を持っていないと思うからです。やはり会社をしっかりとマネジメントし、また従業員がいる場合はその人たちの能力が生きるようにうまく扱うことは簡単ではないからです。2つ目は、私自身任された仕事をこなすのが好きだからです。与えられた仕事を自分の力を使ってやり遂げることに喜びを感じる人間だと思うので、自身で仕事を決めるよりも、会社員の方が向いていると思います。
98	3	1	2	起業することは自分のやりたいことを仕事にできて、面白いのかもしれないけど、リスクが高くて全く成功せずにつぶれることが多いと思う。起業するにはしっかりとしたノウハウを勉強して本当にやりたいことに対する意思が強くないといけない。僕はまだ将来やりたいことが決まっていなくて、起業がうまくいく術も知らないのでもうまくいかなさと思う。だから今のところは起業したいとは思わない。
99	3	1	2	その理由は2つあります。1つはリスクが大きいからです。授業で学んできたように中小企業の良さはとても多くあり、日本を支えていることに間違いありませんが、現代の社会で会社はいつつぶれてもおかしくありませんし、ましてや中小企業は政府からの補助もあまりありません。現に、大手であるシャープも経営赤字であるとニュースで見ました。したがって、自分で会社を立ち上げて、つぶれるかもしれないというリスクを背負うことはできないと思います。2つ目に、経営するうえで大切なことは大ヒット商品や考え、サービスを生み出し、会社がうまくいった時にこそ、発祥するリーダーシップだと思っています。よって私にそのようなリーダーシップを発揮することができず、私は従順に従うタイプだと自分を分析したからです。以上の2点は、非常にネガティブな意見となりましたが、利益とリスクを考えたうえで、起業・創業はしない方が良く考えました。
103	3	1	2	なぜならまだ就職をしたことがなく実感がわからないからである。起業するということは確固たるビジョンや自分の意志が必要であり、それらを持ち合わせていない（現時点で）ため、起業しようと思わないのである。ただし、将来的には考えが変わるかもしれない。就職し、より密接に社会とかわかり、その中で自らの役割や意義を持つようになれば、よりそれらを自分の意志に沿うような環境に置かれるかもしれない。会社の中で自分の役割や意思を表現できなくなれば、起業をするかもしれない。ただしそのためにはまず、自分の仕事に熱心に取り組み、会社という存在を通して社会の役に立つことが前提である。
104	3	2	2	なぜなら現時点での私自身に起業・創業した後に企業を進展させる知識が少なすぎるからである。才能を持つ人材が起業・創業する中小企業は、社会には必要不可欠であり、すばらしい企業であるがやはり、経済状況の影響を受けやすいことが特徴として挙げられる。個人が築き上げる企業のための政策は授業内でも学習しているが競争の激しさ、規模の拡大や保持の難しさは想像をはるかに上回るものであると考えられる。人々の生活にならないう企業設立、さらに中小企業としてどう生き残るべきか、これらをこれから学ぶことにより、起業・創業について現実性を持って向き合えるようにしたいと思う。よって知識量が不十分である、現時点では私は起業または創業はしたいとは思わない。
110	3	1	2	なぜなら、しないのではなくできないと考えているからである。私は2年間、商学部で経済や経営の歴史や戦略について学んできたが、先人たちのような斬新なアイデアを考えついたり、大胆に行動していく積極性がないからである。今、大学における講義やサークル活動の運営などを通して身に付けようとして心にかけている途中であるので、将来的にはできれば良いと思うが現状の私では無理なので起業したいとは思わない。
112	3	1	2	私は起業に興味はあります。しかし将来起業するかどうかといえませんが。なぜなら経営を続けていくうえで重要な資金について不安があるからです。近年では多くのベンチャー企業が存在しますが、その企業の方とお話する機会がありました。その企業は年々知名度を増しているそうですが、知名度が増したからと言って売り上げが増加するとは限らないし、赤字経営が続いているとのこと。お話を聞いて自分自身で再確認できたことがあります。それは起業するのではなく企業に雇用されて労働した方が安定しているということ。この理由が1980年代の中小企業の閉業率の逆転の理由でもあるように私は安定を求めているので起業をするつもりはありません。
113	3	1	2	これからの人生で起業を成功させたいという欲は生まれません。仕事の部分にやりがいは求めず、衣食住において不自由なく過ごせるほどのお金を持ち、したいと思えることができ、行きたいと思うところに行く時間とお金がある人生が最高だと考えているから。
115	3	1	2	私の性格上、何かアイデアを創出し、新たなビジネスを起こすというのが苦手で、与えられた仕事を確実にこなす方が性に合っていると思ったからです。また事業に失敗したら自分がどうなるかという風に考えるとあまり起業する気になれなかったです。ただし、この現状ではいけないと自分でもわかっているため、小さなことでも考えるという姿勢は失われないようにしようと思います。考えることが楽しくなってきたら、今は起業したくないという気持ちがあるが将来起業したいと思える日が来るのかもしれないと考えています。
117	3	1	2	誰も考えたことのない独自の視点から大きな成功を遂げるベンチャービジネスのような起業にはあこがれや夢はあると思うが、生じるリスクが大きいと思うので起業や創業には興味はわかない。起業や創業に失敗した時のリスクをどうしても考えてしまう。
118	3	2	2	同志社に来て周りの友人が起業している父を持つ子たちが増えて、どちらが良いのかと考えることもよくあるが、その子たちの父親は、従業員全員の生活を背負っているという責任が重すぎて息子や娘には継がせたくないと言う話を聞いて、起業するにあたって、たくさんのお金も必要で、借金も何億が当たり前という世界には踏み込めるほど、責任感も強くないし、起業したからと言って必ずしも成功が待っているかと言われればそうではないし、それなら起業をするメリットは私にはないのかなと感じたから。
119	3	2	2	私の親は自営業を営んでいます。その姿を見ていて、大変そうに感じるからです。起業するということは、その会社で一番の人間になるということであり、従業員の家族の生活まで抱えているからです。この不景気な中、儲かる企業はごくわずかでは経営が難しく聞きました。以上の理由により、私は起業・創業したいと思いません。
120	3	1	2	現代の日本ではさまざまな中小企業が存在しており、これから新しい企業を作り、確立させ、大儲けしようとしてもほぼ現実的に不可能と考える。それならばすでにある中小企業で出世していく方がよっぽど現実的な儲け方であると考えられる。さらに私の父は中小企業の社長をしており、私はその家の長男である。私はこの父が経営している会社で働き、学び、父の跡を継ぎ社長になる。だから私は起業・創業したいと思わない。
122	3	2	2	私は一回生の時にベンチャー企業にインターンシップをしたことがある。社長に付き添う形でいる現場を見て回ったが、社員もその社長の思いにひかれて一緒に働いて、社長 love という会社でした。そんなカリスマ性を持たない、やりたいことも明確でないと支えてくれる、支えたいと思ってくれる人が集まらず倒産しそうだからです。
124	3	1	2	なぜなら営業職に就きたいとすでに考えているからだ。なぜかという、自分は話術が得意であり、その自分の得意な分野で仕事をし、企業に貢献したいと思っているからだ。また人と接するというのが好きで、さまざまな企業に出向き、さまざまな人とつながりたいとも考えている。
125	3	2	2	なぜなら起業・創業するということは全ての従業員や会社に関わる全ての人々への責任を負わないといけないからです。今の私には、そのようなノウハウや思考やリーダーシップ能力が企業や創業するレベルに達していないと思います。それに私は、人と接するのが好きで接客業に向いていると思います。もし、起業・創業家になって人と接する機会はたくさんあると思いますが、少なからず私のイメージでは少ないと思います。私の能力は、起業・創業者で従業員を引っぱっていくよりも、一人一人の顧客と接するサービス・接客業の方が活かせる、向いていると思ったので、私は起業・創業したいと思いません。

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
126	3	1	2	なぜなら私は経験上リーダーの立場においては自分を活かすことができないと思うからです。私は何回かリーダーとして企画を作り上げてきましたが、なかなかいい企画ができませんでした。その原因として、あまり全体をみて、気配りができなかったからです。そんな私が起業したいと思ってもすぐに部下からの反発が起きたりして、いい人材を見抜くことができずに会社をつぶしてしまいました。それぐらいなら私はリーダーを支える右腕のような存在になりたいと思います。なぜなら私は自分の力量に自信を持っているからです。もしリーダーに求められ、右腕のような存在になったら、実際に意見を私が言ったらそれをそのまま信用して使ってくれると思います。つまり私は実質、起業を動かしているのと一緒であり、起業していることと似たようなことだと思います。私は自分自身がリーダーとなって、実際に企業はしたくありませんが、上司のような立場でありたいなとは思っています。なので一生懸命働いて信用を勝ち取り、リーダーの存在の人の右腕となり、企業自体の運営とは関わりたいと思います。
127	3	1	2	全部雇用と完全雇用は等しくなく、また1999年に中小企業基本法が改定された後でも二重構造は解決していない。しかし一部の中小企業では改善されたが、全体で見た時はされていないという矛盾が残っている。たしかに中小企業はMade in Japanの競争力を支える大切な企業であり、新たな産業を創出し、地域の活性化を促す大切な役割を持っているが、歴史を見て問題型中小企業認識から貢献型中小企業認識が変わってから日が浅く、どういった形態をとれば安定するのか不明と考えられる。そのため私は起業・創業したいとは思わない。
132	3	1	2	その理由として、まず起業するにあたり資金が必要となり、私は資金を投資してまで会社を立ち上げることにリスクを感じます。また起業すると従業員等を雇う必要があり、私はこの従業員をまとめるだけの力があるかどうかと問われるのではないかと思います。従業員が不満を感じずに仕事や作業が行うことができる環境を作れるかどうか自信がありません。会社を運営するにあたり、従業員が働きやすい空間、雰囲気を作り出すこととはとても大事であると思います。
133	3	1	2	中小企業憲章の基本理念で明記されているように、「経営者は企業家精神にあふれ、自らの才覚で事業を営みながら、家族のみならず従業員を守る責任を果たす」ことが求められます。私は私自身の暮らしを守る事でも厳しいであろう社会で、従業員やその家族の暮らしにまで責任を負うほどの気概を持ち合わせていません。仮に創業しても、借入金の返済に目途が立たず、廃業するとすれば、その途端、私は失業者となり、債務は私が放棄できたとしても家族にまで迷惑をかけることを恐れます。従業員を路頭に迷わせてはならないという重圧に耐えられずともなく、それならば雇われることによって少しでも安定を求めます。バブル経済崩壊後の「失われた20年」で人生を送ってきた私たちが世代は、堅実である傾向にあると言われ、「さとり世代」とも呼ばれます。自らの才覚に自信があるが、社会や企業に満足せず、より良いビジネスを展開しようとする志の高い人でなければあえてリスクを選択できるような時代ではないのではないかと考えます。
135	3	1	2	起業するには初期投資にもコストがかかり、うまくやっていけないリスクも大きい。万が一うまくいったとしても長続きする保証もないからだ。大企業も苦戦している現状を考えると、自分が起業し、厳しい競争を勝ち残っていくのはかなり難しいと思う。そのようなリスクを犯してまで私は起業したいとは思わない。
136	3	1	2	理由は3つあります。立ち上げた企業を存続・繁栄させるために必要な知識が不足しているため。廃業率から考えた場合企業には多くのリスクが存在するため。すでに存続・繁栄している企業に属し、老後など安定した生活が送れるだけの資金を手に入れたらという思いがあるためです。
137	3	1	2	僕は高校の友達と現在、ルームシェアをしています。事の発端は一人暮らしをするためにお互いに金銭的に余裕がないということから始めました。それでも生活をしていくと予想しているよりも費用がかかります。その時、半分冗談で起業しようとしたことがありました。そこでいろいろ考えていくと、起業するにはまず、資金が必要で今の僕たちにはその資金を調達する手段もない。そしてどの分野に参入するのかと考えた時なかなか明白に革新的にこれだというアイデアが思い浮かびませんでした。そして学生が起業した場合5年存続する可能性は10%程度だと聞きました。上記の理由からかなりリスクな案件だと思ったので二人で断念することになりました。やはり起業するとすると、経営するものにならないノウハウが必要だと思えますし、そこに初期投資できる勇氣と自信が必要だと思えます。
138	3	1	2	なぜなら、起業したいという思いが少なからずあるからであるものの、起業、創業し成功するための知識が不十分だからである。実際に、アルバイト先の先輩で、陸上教室を自ら起業した人がいるが、話を聞くと、経営の勉強をしたほうが良かったという声を聞いた。ただ、起業したいという思いだけでは、起業後に困難に陥るだろうし、成功するのが難しいと思う。この講義をはじめ、多くの学問をしっかりと学び、多くの知識を持つことが起業・創業するには必要だと思うため、私は現段階では起業・創業したいとは思わない。
140	3	2	2	なぜなら将来やりたいことが不明確であるからだ。もしどこかの企業に就職することになって、自分のやりたいことが明確になったなら、その時は起業・創業したいと思うかもしれない。しかし、今、私はゼミで企業家について学んでおり、その人々を詳しく調べていくうちに、起業する上での覚悟や責任、そして自信を知り、起業・創業とはとても努力が必要であると感じた。起業・創業することで社会に貢献できることは誰にでもできることではなく、今はするつもりがないにせよ、企業そして起業についてよく学びたい。
142	3	2	2	その理由として3つある。1つ目にリスクが大きいということだ。1つの事業を成功させようと思えば莫大な資金が必要となってくる。そのため多くの資金を投じて、失敗した時のリスクが大きいと感じたため起業したいと思わない。2つ目にライバル企業が多いということだ。現在、ネット社会であるため、容易にパソコン上で起業ができる世の中となっている。そのため、競合企業が多く、その中で勝つことは難しいと考えたためである。3つ目に現在多くの企業が存在しているが、私には今ある企業の中で、魅力的だと感じる企業がある。そのため、自分が起業しなくても、もうすでに存在しているため、その会社へ入ろうという考えとなり、以上の3つにより、私は起業したいと思わないという結論に至った。
143	3	1	2	なぜかという、私の実家では、自営業で化粧品店を営んでいるのですが、小さい頃から、親の働く姿を見てきて、立派だと思うのと同時に、とても大変であるなど感じるからです。自営業だと、仕入れから販売までの流れを自分たちで管理しなくてはならないからです。私の性格上、そういった新しい市場、世界を切り開いていくことはあまり得意ではなく、どちらかという一定の落ち着いた場で働くことを好むので、そうやって理由でも起業したくないと思えます。
145	3	2	2	なぜなら起業するにはひとまず、資金が必要で従業員も必要になります。そして起業するに至って、経営のノウハウなども勉強しなくてはなりません。今、授業で習っていないけれども、経営は難しいと思うのと同じように、実際にするとすると、頭で思っている何倍も困難だと思います。自分のことで精いっぱい私が従業員への責任を負えるとも思えません。なので私は起業したいと思いません。
146	3	1	2	なぜなら自分は新しい会社を1から作り、リーダーシップを発揮していくようなタイプの人間ではないためである。それよりも今存在する企業で少しの制約を受けつつも別の事業を展開していくような、企業のトップではない、新しい部署のトップのほうが性格上、似合っていると思います。また、創業するときのリスクを負うようなことはなかなかできないため。
148	3	2	2	起業することは安定するまではつぶれるか生き残るか分からないものなので、自分の人生や従業員の人生を背負う自信がないから。
149	3	2	2	近年、大企業ですら倒産したなどという話をよく耳にするため、そのような社会状況において、スキル、経験が不足している自分では社会の変化に対応しきれず、企業を存続させていくことは不可能であると考えられているからである。
150	3	2	2	起業して中小企業を運営していくことは簡単なことではないのを知り、自分がまだやりたい、頑張りたいことも見つけられていないのに起業して成功するとは思えない。中小企業は今の日本でも守っていくべきだが自分が起業したいかと考えるとまだ起業したいとは思えない。

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
152	3	1	2	起業してその企業が10年後にも残り続けているのは統計上10%であり、私はその10%に入れる自信はない。中小企業論のテキストに書いてある通り、従来に比べて中小企業と大企業の格差は縮まったものの、それでも中小企業が銀行などから融資を受ける条件は厳しく、資本が少ないため、海外進出や新しい事業に取組んだり、開発するコストに余裕がなく、苦しい経営を強いられることになると考えられるため、そのようなリスクを考慮すると、起業・創業するよりは、大企業、もしくは給料が良かったり、労働環境の劣悪でない優良な中小企業に就職して働きたいです。
153	3	1	2	まず理由の1つとして、今の私にはこんな仕事をしたいというものがありません。事業を成功させるには明確なビジョンとそれに対する強い意志が必要であると思います。さらに、この不況の時代において、10年続くか分からない起業をするのは勇気のいることであり、さらに今ないニーズの発見をしてそれを明確にするというのは非常に難しいことだと思います。今後、新たなニーズの発見やそれを成功させ、その後どのように成長していくのかのビジョンを明確にできるようなものに出会えれば考えますが、今のところは考えていません。
154	3	2	2	理由は、私は、会社を立ち上げて人を引っ張っていくのには向いていないと思うからである。上司に与えられた仕事をこなして、普通に生活していくという安定な人生を望む。起業はリスクが大きいと感じるし、成功すればとても良いと思うが、失敗した時のことを考えると怖い。私の性格上、確実性、安全性を求めるタイプであるから、起業は向いていないと考える。また、起業するには多額な資金と人望が必要であるから、現実的には厳しいという思いも強い。
155	3	1	2	理由としてはまず、ビジネスをする資本（特にお金）がないことがあります。現在においては起業する際に、資本金は必要ありませんが、何かをするとなった時にお金は必要です。私は今、学生のため、お金に余裕がありません。これはビジネスをするにあたり大きな不利であると考えています。次にビジネスに対する経験や視点が乏しい、人を見る目がそこまで養われていないことがあります。バイトこそしているもの、それは基本遊ぶお金のためであり、生活のためではありません。また、バイトと社員として働くということには大きな違いがあると考えており、その経験がない私には、上述の通り、ビジネスに対する経験や視点が乏しいと言えます。また、これまでの人生において関わってきた人たちのコミュニティの範囲が狭く、ある程度は人を見る目が養われているとは思いますが、ビジネスパートナーとして人を見る目は全然養われていないと思われます。起業・創業は一人でできますが、ビジネスをするにあたって人と関わることは避けられません。その時に人を見る目がなければ大きな痛手をとる可能性は大いにあります。このような理由から働いた経験のない私は現段階においては、起業・創業したいとは思いません。しかし就職して働き出したらその考えは変わるかもしれません。
157	3	2	2	2009年に420万あった企業数が2012年には385万と大幅に減っており、そのデータを見て私はこの3年間で35万の企業がなくなり、その裏にはたくさんの方々が失業したのだなと思ひ、またもし起業し経営者となったら自分の判断で会社の道が大きく分かれることに大きな不安を感じました。自分が従業員とその従業員の家族を抱えていくことは大変大きなプレッシャーを感じるうえ、起業した会社が大きくなっていく規模が拡大し、従業員が増えていくにつれ嬉しさと同時に焦りと不安も感じると私は考えました。これらより私は起業・創業したいとは思いません。
158	3	2	2	今この不況の中で新しいビジネスをやるのは凄くリスクに感じるからである。今の時代では企業を起こしたとしても何年も経営していくのは実際には困難でかなりの手腕が必要だと思っているからである。そして日本では一度経営や事業に失敗すると再スタートのできにくい国である。もともと日本の中で起業してチャレンジしやすい環境が整ってはいないと思う。
159	4	1	2	その理由として大企業と中小企業を比較したときに、その割合があまりにも中小企業が多すぎるため、起業・創業したところで多くの中小企業を押しつけて大企業へ足を踏み入れるほどの生産性を一代で築けるとは思えないからです。また、新規で市場を開拓するならば良いかもしれないですが、既存の市場に入るとは難しく結局大企業の下請けになってしまう、そのポジションについてしまうとなかなか大企業と足をそろえるということでは難しいと思うので、起業・創業したいとは思いません。
160	4	1	2	なぜなら私は漠然としています、人々を幸せにしたいという思いがあります。この思いを叶えられる場所としてふさわしい企業は現存する企業の中にも存在します。そして、その現存する企業には、今から起業する企業とは違う点があります。それはすでに、人々を幸せにするために必要な土台の部分ができて上がっていることです。私が今から起業するとして、土台の部分、直接的に人々を幸せにすることではないことから手を付け始めなければいけません。私は人々を幸せにするという行為を追求したいと考えており、違うことに手を付けている場合ではないと今は考えています。ただもちろん、これから社会人となり企業に入ること、自らの考えることができること、判断するときもあり、そのため、起業を考えるとあるかもしれません。ただ、最初に述べた通り、今は環境が整ったところで自らの思いに専念したいと考えているため、現状では私は起業・創業したいとは思いません。
161	4	2	2	理由として、父が中小企業の経営者であり、その姿をずっと見てきたからです。30人程度の小さなIT会社ですが、父が身を持って働く姿は尊敬していますし、感謝の気持ちでいっぱいです。ただ、後継者を決めるまでは70代まで働くと言っており、私にはできないと思ってしまいました。今回、4月から中小企業論を受講したのは、中小企業を客観的な視点から学びたいと考えたからです。今まで講義を聞き、自分でも中小企業について考えてきました。そこで得たものは、中小企業こそ社会に必要な存在であるという気づきです。自ら就職活動中ということもあり、社会や企業にたくさん向き合う中で、大企業は0.3%にすぎないことを痛感しました。また中小企業として多く存在するBioB企業の重要性に気づき、今はBioBメーカーを中小に見るようになりました。以上より、起業はしたいと思わないが、その存在が社会を支えていることを講義を通して学ぶことができました。
162	4	2	2	理由としては年金や福利厚生といった面でやはり企業の社員として働く方がメリットを感じます。特に年金では退職後の年金額は会社員と自営業の差が大きく、自営業は嫌でも老後は働かないと食べていけないと言います。また私の父が脱サラして起業して自営業を営んでいますが、病気やケガを負っても休めないという点や土日でも常に仕事に追われているのを長年見ているので、起業はしたくないと思っています。
163	4	2	2	起業・創業することは大きなリスクがあることと、女性であり、そこまでしたいと正直思いません。1人で会社を創業し、他に誰も雇うことのない規模であればもちろん誰にも迷惑をかけることはないが、だから1人でも雇った会社を動かすことは従業員とその家族に迷惑がかかると思います。会社で雇用側として働いてお金をもらう方が私は安定していいのではないかと思います。起業して大成功することは少なく、一年半で大変多くの会社がつぶれていきます。大成功して自分のやりたい仕事を、従業員から信頼・尊敬されることはあこがれだと思いますが、それを得るためにはかなりのリスクがあり、私には勇気がありません。また起業できるほどの頭の良さもないと思います。
164	4	1	2	この授業を受ける前にも起業するにはリスクが高すぎる、成功する人はごく一部だけだと考えていましたが、やはり授業を通してその考えは変わりました。むしろ日本の企業の99%に近い企業が中小企業であり、私たちが普段目にしていく企業はほんのわずかです。大企業まで会社を成長させていきたいというわけがありませんが、やはり数字がどれだけ企業を立ち上げ成功する力の難しさを表していると思います。以上の理由から私は起業・創業したいと思いません。
167	4	1	2	その理由は現時点での現実的な自分のスキルに自信がないということが一番である。また、市場が成熟している現代では、参入障壁の高い業界が多く、戦える市場がかなり制限されていることも挙げられる。リスク的な観点からしても、企業に対してほとんどがうまくいかないというイメージがあるため、どうしても自分から会社を起こしたいという気持ちになれない。
168	4	1	2	私にはアイデアもなければ、資金も情報も持っていないためです。これから、歩いていく人生の中で、実現させたい夢、必要になってくるであろうサービス等のアイデアに巡り合えたら、起業・創業に携わりたいと思います。
169	4	1	2	なぜなら私は製造業等のシーズオリエンテッドな業界の経営に携わりたいと思っており、自分では技術がなく、設備等も用意できないからです。技術を持った人と共同であればそれに関わるかもしれません。

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
170	4	1	2	起業して経営者として、責任のある立場で起業を運営していくのは、やりがいのあることであり、自分の考えたことを即座に経営者としての権限で反映できるのは魅力的であり、世界の中でクリエイティブな他国のアイデア製品に圧され気味な日本にとっては、そういった自分らのアイデアや志をもった起業するすばらしいと思いますが、会社というのは、社長だけが成り立っているわけではなく、目の目の見えないうちで、家族などの自分の守るもののために上の命令で頑張っで働いている労働者には自分は憧れるし、そうなりたいので、自分は起業したいとは思いません。
171	4	1	2	企業における成功に必要なものが私自身では3つあると考えています。1つは多様なコミュニケーションの場とそこでの人脈形成です。まず、ビジネスチャンスを作るためには、そのための生まれる場所を多く作ることが大事だと思っています。2つ目はアイデアです。誰も気づかなかったような目線、視点を持つことで、ニーズを創出できると考えています。3つ目は、失敗を恐れないことです。これらを考えて結果、自分には持ち合わせていないものが多いので、成功よりも失敗のリスクが高く感じるので起業したいとは思いません。
173	4	2	2	起業・創業をして、たくさんの利益が得られ、成功する可能性もあるが、失敗して、さまざまなリスクを負う可能性もあると考えると、私は起業・創業をしてチャレンジしようとは思わない。実際に、私の友人の親が起業し、会社を経営していたが、事業がうまくいかなくなり、倒産してしまった、ということがありました。このようなことを身近にみたため、リスクのことを考えると私は起業しようとは思いません。
174	4	1	2	仮に1億円もらって起業しますかということを抗議でも聞かれたがそうは思わなかった。理由はリスクが大きいこと、確かに中小企業基本法は1999年に改定されてよくなったものの不安の方が多からず。またコソコソと起業や創業のためのお金を集めてもその後失敗でマイナスになるのではないが、また起業率より廃業率の方が増えたことを踏まえて自分は「思わない」である。
177	4	2	2	私の父は今、長年続く酒造株式会社の社長をしているのですが、父の父、つまり私の祖父が多額の借金を残したまま亡くなり、父がそれを背負っている状態です。最近では母から聞いた話では、父が死ぬまでずっと働き続けられ返せる額らしいのですが、死ぬまで働き続けることは不可能であることは明確で、私が高校生の時、父の友人が同じように借金をかかえて耐えきれなくなり踏切に進入し自殺したそうです。そして父は「俺も死のうかな」と言っていたみたいです。そんな話を聞くとも自分でも起業し、莫大な借金を抱えることになるかもしれないリスクを考えるととても起業したいとは思わない。起業と言ってもさまざまな規模はあるとは思いますが、私は安全に安定して生きていきたい。そんな父は還暦を超えた今でも少ない従業員数で一生懸命働いてくれています。
178	4	2	2	なぜなら現在は就職活動をしており、まずは1つの企業に属してみたいという思いがあるからです。しかし将来、世の中に対して必要とされているサービスがあると感じれば、たとえ成功しなくても、起業するかもわかりません。人生は一度きりなので、何かの底から社会貢献ができたと思えることをしてみたいという思いがあるからです。
180	4	1	2	私の父は自営業をしています。父の仕事は魚の卸売業をしているのですが、東日本大震災の時に仕事場や仕事道具をすべて流されてしまい、また一からすべて買わなくてはならなくなりました。もちろん自営業なので自費です。それだけではなく原発の影響による風評被害が今でもあり、私の港から上がる魚を買ってくださるお客様が少なくなりました。東京電力からは一年間だけ前年の3分の1だけ稼いだお金は返ってきませんが、5年目の今でも昔の収入には戻りません。これからどうなるかはわからないし、父も60なので働く場所もなく、学費を払うのがたいへんです。父の大変さや自分自身の大変さを考えると起業・創業したいとは言えないですし、思いません。
184	4	1	2	自分自身が今就職活動を行っているうえで、正直心の底からやりたいと思う仕事があるかと聞かれればあるとは言えないです。それなら、自分がやりたいことを見つけて会社を創って経営をしていければいいのではないかとあります。しかし、今起業・創業に対して前向きではないと思うのはなぜなのか、それは自分が育てきた家庭環境にとても影響してくると思います。私の父は自営業をしています。父が起業したわけではなく、私の家系(一族)が代々継いできたのです。実際に自分の父が起業をしていたのなら後押しもしてくれそうですし、起業することへの恐さ、危険さも教えてくれると思います。それがないので、私自身起業・創業に対しては思いません。
185	4	1	2	就職活動中だが、自分で起業するのは雇用されようとしている側からするとリスクが大きすぎるように感じる。安定した企業でそれなりの収入を得たいと考えているため、一から始めて長く続けていくにはかなり難しいように感じられる。リスクが大きすぎるために起業したいとは思わない。
190	4	2	2	リスクを伴うより、安定的な企業で働きたいです。
193	4	1	2	私はゼミの研究の関係で、日本の起業率やベンチャー企業の現状を調べました。日本は欧米に比べても新規成長企業の支援制度が圧倒的に少なく、そこで成功する確率は非常に低いと感じました。実際にベンチャー・キャピタルを行う会社やクラウドファンディングなどベンチャーの投資を行う方たちのお話でも、成功するのは本当にほんの一握りの人だとおっしゃっていました。自分がその一握りになるとはあまり思わないので、起業はしません。
197	4	1	2	起業に関するアイデアやノウハウをまったく持っていないし、周りにもそうではない人がいないため、成功するビジョンが見えないから。仮に起業するとしても、一度どこかの企業に勤め、仕事のやり方や、経営のノウハウ、仕事をしていくうえで必要となる人間関係、ある程度の資金が集まってから、挑戦してみたいと思います。
200	4	1	2	私は現在就職活動をしており、今現在の段階では、起業・創業するつもりはまったくありません。父が大手飲料メーカーに勤めており、私は幼い頃から、安定した不自由な生活を送っていました。高校、大学と私立学校に通わせてもらい、兄と弟も私立学校に通っています。そんな父の背中を見て育った私は、父のようにならないうちに安定した家庭をもちたいと考えるようになりました。それに比べて、起業・創業することを考えると、あまりにリスクが大きいと考えます。まず第1に、自分自身が経営のノウハウや企業の仕方などあまりに無知のため、たとえ企業したとしても、経営していく自信がありません。次に、日本にさまざまな企業が存在するなかで、この先生き残っていくのかという将来性があまり感じられないからです。以上の点から、私は起業・創業したいとは思いません。
203	4	2	2	新しく会社を起こしても、日本の企業のなかの1%にも満たない数かもしれない。大企業まで成長させるのは至難の業であると思います。また、日々いろいろなところで新たな企業が生まれていますが、そのなかで10年、20年つぶれずに会社が稼いでいくのはほんの一握りしかないので、そこまでのリスクを考えて起業・創業しようと思えるだけの能力や自身は私にはないので、起業・創業したいとは思いません。
205	4	2	2	私は起業・創業したいと思える夢や成し遂げたいことが特にないからです。また自分で会社を立ち上げるとなると、並々ならぬ努力、知識、覚悟、経営スキルが必要になると考えます。なので、そこまでして、私は何かを成し遂げたいとは思いません。また、人の上に立つ立場、人を雇う立場としても、必ず利益を出す必要があります。私にはそこまでできる自信がありません。でも本格的なビジネスとしてではなく、こんなビジネスがあればいいの、と思うことは途上国の人の支援をして、何か利益につながる仕事です。でも、自分が起業して何か始めたという気持ちにはまだありませんでした。なので、私は起業したいとは思いません。
207	4	1	2	そもそも起業・創業して今からを戦う能力が自分にはなく、また仮にそれがあっても権利関係、法律関係、社員の生活等の責務を一身に背負う人に頼れない性格のため、自身がつぶれることが目に見えており、他の誰かが作った会社の方がパフォーマンスを発揮できると考えているから。
209	4	1	2	私はすでに地元市の市役所の職員となり、一生その地に貢献していきたいという夢があるため、起業・創業するつもりは一切ありません。
210	4	1	2	理由はリスクを負いたくないからです。私の家は母子家庭で、小中学生のときは苦しい思いをしたこともありました。その頃から私の夢は、普通の家庭を持つことです。なので、私は普通のサラリーマンになり、共働きでもいいから子供を立派に育ててといったマジョリティな人生のプロセスに憧れを抱えています。もちろん、企業で働くことにもリストラなどのリスクはありますが、起業・創業するよりも可能性は低いでしょうから、起業・創業はしたくないです。

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
211	4	1	2	理由は、利益をあげられる可能性があるアイデアを持っていないから。もし将来にアイデアが浮かんだら、起業してみたい。
215	5	1	2	国内に留まらず、国際的に競争は増すことは明らかであり、グローバル化、技術・市場ニーズを読み取り適応していけるか不安だからです。しかしながら、世界にほこれる日本の大企業や中小企業の技術、これからの発展性が気になるというのも事実である。このため私は起業・創業ではなく、今ある技術・ノウハウ・歴史を学べる既存企業に興味があり、学び、サポートする立場につきたいと考えたからである。
218	5	1	2	私の実家は、自営業を営んでおり、ガソリンスタンドの経営と石油製品の販売などをしています。この事業は私の祖父が始め、現在では父が2代目を継いでいます。もちろん会社の大きさは、年商1億円の小さな会社です。しかし現在その経営が苦しく、ガソリンスタンドの支店は次々に閉店しています。おそらくもってあと10年くらいだと思います。私は生まれてからずっと会社を見ながら育ちました。それゆえに、私自身が起業や創業をしたいとは思いません。確かに今日において、中小企業を守ろうという動きはあります。だからといって、起業したら100%うまくいくわけではなく、そのほとんどがつぶれてしまいます。そんな厳しい現状の中、起業や創業をしたいとは思いません。
219	6	1	2	アイデアを創出する力が欠けているためです。
220	6	1	2	知人が世田谷区の創業支援を受けて起業したが、失敗し、1000万の負債を抱えて自己破産を申請しているのを見てきたから。
224	5	1	2	なぜなら私は今就職活動をしており、一般企業に就職し定年まで働きたいと考えているからです。また、私にとって「安定性」が一番企業選択を行ううえで大事にしていることであり、就職活動を行う事由ともなっているからです。「起業すること」に関する知識など、あまりわかっていない点もあるとは思いますが、やはり「安定性」を求め、安心して働けること、という面において起業することは少し不安な面があると感じています。以上から私は起業をしたいとは思いません。
225	4	2	2	現在就活のため、よく起業についてのお話を説明会で耳にするが、現在日本で起業して3年以上続く会社は非常に少なく、20年以上続く会社は1%を切ると聞いた。また廃業率が、開業率を上回っている時代の起業は、(地域にもよるが)リスクが大きいと思うからだ。全国・海外志向でグローバルな事業の規模拡大を目指し活動できる自身も、今の自分にはどうしていないため、現段階での起業・創業は考えがたい。
226	4	1	2	理由として3点あります。1つ目は、ビジネスを成功させる自信がないことだ。これまでにないビジネスを生み出す必要があると考えるが、社会での経験が不足していて、ビジネス感覚をまだまだ持た合わせていないと感じる。2つ目は、会社へ就職した方がよりよい福利厚生で働くことができると考えるからだ。3つ目に、企業に就職すれば、すでにノウハウと業界内で信頼が確立されているため大きなビジネスに関わることができると考える。以上により、起業を積極的には望まない。
227	4	2	2	理由として世の中にたくさんの企業があるなかで、新しく起業して成功するのはかなり難しいと考え、またそれに伴うリスクも相当なものだ。資金の面が大きいが、軌道に乗せるまでがたいへんで休みも取れないと思う。成功すればもちろん魅力的なのだが、リスクを考えると私は起業者側よりも雇用者として働きたいと思う。
231	4	2	2	理由としては起業・創業をすることは、大きなリスクを伴う可能性が高いというイメージが強いからです。また、起業・創業をするにあたっては、経営に対する詳しい知識が必須となるけれども、そういった知識を得ることができても、実際に利用して、起業・創業をできる自信も正直ありません。気持ちだけが先行していても、成果が伴ってこそ意味があると考えるので、長期的な観点でも考えると、起業・創業したいとは思いません。
233	3	1	2	正直特にこの事業というアイデアありませんし、実際に起業するのは株式会社でも少々リスクが大きいような気がします。また私は企業の法務部門での仕事をしたいと思っており、大学でもそのための勉強をしていますので、あまり起業への興味もありません。
5	2	1	3	起業・創業したい、したくないの自分に知識がないので今は何も考えられない。でもいずれ知識が身についたとき、その時自分が楽しそうだから起業してみたいとか失敗するからやめようとか自分にとってプラスな方向に進めたら良いと思う。
17	3	2	3	考えたことないから。
22	3	1	3	自分のスキルアップや挑戦したいことに自由に取組むことができる等の点は、非常に魅力的ではあるが、それに伴うリスクのことを考えると、少し尻込みをしてしまう。もし今後自分にとってやってみたいことが見つかり、十分な能力があると感じた場合は、有力な選択肢の1つになるかもしれない。
27	3	1	3	わからないと明記したのは、「思う場合」と「思わない場合」があるからである。「思う場合」とは、まだ私に養わなといけけない、守らなければいけない存在がいない場合である。起業・創業して失敗しても、その損害が自分にだけならば挑戦したいと思う。逆に守らなければならない存在がある場合、新しいことに挑戦するよりも、今ある企業に就職して生活を安定させたいと考える。よって、時と場合によるという結論に至ったのわからないを選択した。
31	3	2	3	起業や創業には莫大な資金が必要であり、仮に起業、創業して成功したとしても労働する上でのリスクが多いように思える。がしかし、自分に世の中のニーズを鋭く見つけ出し、それを行動していく能力があれば、一攫千金も夢ではないので、どちらとも言えない。
35	3	1	3	私は父が起業したのを10年以上見てきた。正直、思うのは辛そうということ。父は電気工事で起業したのだが、その分野の仕事内容は厳しいものだし、労働環境もよくはないと思う。私がもし、その会社で従業員で働いていたら文句しか出ない気がする。実際、今の従業員さんたちも思っているところはあるのかもしれない。また、家庭の経済状況がとても厳しかったときがあった。経営成績には大きな波があり、中小ともなるその波が小さかった時に受けるダメージは大きい。こう見ると起業にマイナスだとしか思えないが、父が楽しそうに毎日生活しているのは見てうらやましくも思う。起業も1つの考えとして持ってはいる。父にもいろいろ話を聞いたうえで考えてみたい。
45	3	1	3	私は現時点で、大学を卒業した後はどこかの企業に就職したいと考えています。しかし、成功すれば幸せになるのではないかと漠然とした理由で起業したいという思いもあります。就職した方が生活が安定するのではないかと考えや、自分は起業するにあたって何もわからない状態であるため、まずは就職して社会におけるさまざまなことを学びたいと思っています。その後起業についても考えていきたいと思っているので「わからない」を選択させていただきました。
50	3	3	3	まず自分が新しい産業を生み出すことで、大学生や社会人に対して、就職の機会が増えるし、地域経済活性化にも役に立ちます。また、新しい中小企業基本法にも、経営革新や創業の促進などの支援があります。ソフト面、技術、設備などの支援がたくさんあります。情報の提供や研修、資金供給円滑化なども提供されます。事業活動の促進に関しては、研究開発、支援人材、機械による資金調達にも完備されます。しかし、自分が企業を創業することは困難だと思います。いろいろな法律やルールが約束されて自分も経歴がないから、いきなり企業を創業することはとてもやりにくくも思います。もし何か経験や機会があればやりたいと思うか、今はわからないと思います。
56	3	2	3	起業をすることに對して、とても興味はあるが、中途半端な気持ちでは起業をしたとしても成功することはできないうるからである。しかし、近年60歳以上の起業家比率が増加していることや女性の起業希望者が増加傾向にあることから、今すぐでなくてもいずれはするかもしれない。女性が就労する場合、出産や育児などに伴い、いったん労働市場から退出を余儀なくされてしまいかねない障壁がある。そのタイミングでも少し考えており、女性らしさを活かした事業運営も悪くないと思った。

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
57	3	1	3	起業するには資金が必要であるし、成功するか失敗するかもまだわからない。もし成功すれば、経済的に豊かになり社会的地位が上がるかもしれない。しかし失敗すれば借金を抱えるかもしれないし、新しい仕事が見つかるかもわからない。現時点では不安の方が大きいのでどちらかというとしたくない。しかしネガティブに考えているだけでは人生はつまらない。もし起業するとすれば何かに興味を持ち、研究し、勉強しなければならぬ。私はゼミで「企業家」について学んでいる。成功した起業家は失敗するまでに失敗することはほとんど。そこからどうつなげていくか、気を利かすかが重要である。さらに一人では成功できない。さまざまな人との協力や出会いが重要となる。そこには本人の人柄や人と巡り合う運がないといけない。このような要素が組み合わされば成功するであろう。しかし、私は人脈もなければそのような学もない。なので現時点ではわからない。
67	3	1	3	今、現時点で自分のやりたいことが明確に決まっているわけではないからである。もし仮に世の中にはなくて、必要性の感じるものが出てくれば、おそらく起業すると思う。したいかしたくないかと言われるとしたい。人生経験にもなるだろうし、最近では少ない資金からでも始めることができるからである。大企業に行って自分のやりたいことができず、不満があるのであれば、新しい事業を始めるのには、最高の状況だと思う。経験は自分の企業で活かすことができる。もし仮に起業するのであれば、起業したいから会社を起こすのではなく、世の中で必要性や求める声があるから起業するようにしたい。私は知識よりも経験の方が大切で、経験こそ一番の知識もついてくるのではないかと考えている。これからじっくり考えていきたい。
88	3	1	3	理由は、私は現時点でいわゆる就職活動をするかどうか未定であるからだ。一から自分で会社を立ち上げることにあこがれもある。京都には何百年の老舗と呼ばれる店が多く存在し、何代目の店主という言葉も耳にする機会も多い。私は九州出身なのだが、卒業後も京都での生活を希望しており、京都で社会人になるということになる。もし卒業後就職せず起業・創業するならば、当然のことだが起業するということはリスクも発生する。しかしその点は仕方のない事だが、他にも問題が生じる。友人や仲間と会社を立ち上げたとする。50~60年後には、歳を重ねているわけであり、作った自分たちの会社の後継者問題がある。一度立ち上げた会社を一代目で終わらせてしまうのはもったいないと感じてしまう。現在存在する企業の数も減少している。我が国の企業は高度経済成長期に創業したのが多かったため、現在は開業率も減少しており、そういう時代に起業することに対しては私自身不安もある。
89	3	1	3	理由の1つとして憧れはあるが実際に自分にできるかわからないという理由がある。現在国の政策としても起業に対する援助が多く、ベンチャー企業の波がある。この波に乗りたい思いはあるが、一度就職して、自分が解決したい課題が見つかったから、その問題を解決する手段として起業したいという選択を取りたい。同志社出身の創業者の方々とお会いすることが多々あり、その人たちの人間的魅力に憧れ、自分もこうなりたいと思うが、実際に何をすることが見つかったから起業を真剣に考えたい。
92	3	2	3	中小企業と比較すると大企業は設備も人も充実しており、簡単にはマネできない「良い」企業がたくさん存在すると感じる。それでも中小企業がなくならずに存在し続けるのは確実に必要とされているからである。この中小企業論を学んでいくうえで、起業の分析や起業の成り立ちを今まで以上にしっかりと学び、起業をしたいのか、はたまた中小企業診断士などコンサルティングの方向に向かうのか、ただのサラリーマンとして企業に就職するのかなどの将来像を少しでも掴めたらと思っていますので今後も今までのようなわかりやすい授業をお願いします。
94	3	1	3	なぜならできるものならチャレンジしてみたいという気持ちがありますが、起業には広い人脈と豊富な経験が必要で、自分にはまださまざまな分野で協力してくれる人材を探さず人脈もなく、マネジメントスキルも足りません。まずは企業に就職して自己の成長を目指し、多くの経験を積んでから起業するかしないかを見定めたいと考えています。
100	3	1	3	私は企業についての知識が全くないので起業したいのかがまだ判断できないレベルであります。この中小企業論を学んでいくうえで、起業の分析や起業の成り立ちを今まで以上にしっかりと学び、起業をしたいのか、はたまた中小企業診断士などコンサルティングの方向に向かうのか、ただのサラリーマンとして企業に就職するのかなどの将来像を少しでも掴めたらと思っていますので今後も今までのようなわかりやすい授業をお願いします。
105	3	2	3	なぜなら起業する、創業することに関して具体的なイメージが持てないからである。今では起業する、創業することに関して何も意欲を持たないのかもしれないと思わないのかもしれないが、社会人になって社会のいろいろな面に触れることで新しい分野に興味を持つたりし、起業・創業したいと思うかもしれない。また私は起業・創業に関して何も知識を持っていない。デメリットとしてはその会社の責任をすべて追わなければならないこと、簡単にはできることではないことを私は思い浮かべる。逆にメリットとしては、自分のしたいこと、考えていることを実行し、社会に貢献できる点を挙げられる。しかしどれも抽象的な考えやイメージであり、起業することの具体的なイメージがない。このような理由によって私は起業・創業をしたいと思うかはわからない。
108	3	1	3	実家が畑や田舎で代々林業を営んでいるいわゆる中小零細で自営業の大変さというものをごら見てきたので、自分としてはさまざまな企業の中から自分に合った職を選択できるサラリーマンが良いと思っているが、講義で来てくださった企業のように中小でも地域に貢献して、グローバルに活躍する企業があることを知り、まずはサラリーマンとして自分の興味のある業界を熟知したうえで起業するのもアリではないかと最近では思っております。
116	3	1	3	なぜなら私にはオリエンタルランドで働きたいという目標が今あります。なので将来起業・創業という一から会社を作ることは考えにありません。しかし、私は自分の考えや挑戦することを世の中に発信していきたいと考えているので起業や創業という、新しいことを始めるということに関しては、オリエンタルランドでもし働いていたら、他の企業で働いていたとしても、挑戦してみても世間の人々に驚きや感動を与えたいと考えています。現時点ではわからないですが機会があれば企業や創業をしてみたいと思います。
121	3	1	3	どのような方法でどのようなビジネスの仕方が成功するのかがはっきりとわからないから。
123	3	1	3	なぜなら今の物があふれている世の中で起業して、世間に認められるモノやサービスを生み出すことは相当難しいと思う反面、普通の大企業、中小企業に就職してその会社の仕事に自分自身がやりがいを感じるかもわからないからです。起業はリスクが大きいですが、自分のやりたいことはできない、この2つのどちらをやるのが自分にとっていいかはまだ何も言えないです。
129	3	1	3	まず起業するとき経済的なお金の面をどうしても気になっているのを知って、ビジネスの世界は大変なんだなと少し思いました。しかしその一方で中小企業でも社会や地域のため、また従業員のための会社もたくさんあるのだなということを知りました。今後の就活においても今までは大企業にしか興味がなかったけれども、世間ではあまり知られていない、すばらしい会社にも就職してみたいという変化も起こってきて、中小企業についても知る必要があると思いました。それによって起業への思いも変わってくるのかなと思いました。
131	3	1	3	以前までは自分で起業して会社を作りたいと夢見ていました。自分で一から始めて会社を築き上げていくっていいなと純粋に思っていました。性格的にも誰かの下で働くよりも自分が率先して見本となって動く方が合っているのではないかと思っていました。しかし年齢を重ね、たぐさんの情報、知識を知っていく中で、自分で起業していくたへんさも楽しくなりました。というのも今現在、私がバイトしているのが自営業のお店で、自営業ならではの税金があったりいろいろな苦労話を聞きます。一方で自分の頑張りによってお店を大きくすることができるというロマンも感じます。もちろん自分で起業しないでも存在している会社に入っても、大変なこと、魅力的なこともあると思うので、今はまだ私は起業・創業したいのかがイマイチわかりません。

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
139	3	2	3	まず起業のためには資金の調達や経営を体系化していく人材を集め、他とはかぶらないオリジナルに基づいたビジネスを一から作っていくこと、そのたいへんさで挫折してしまいます。自分が起業するということは、自分がそのビジネスの経営管理者となるということで、私にはまだその責任を補えるための度胸、知識がまだ足りないです。しかし、株式会社 smile は「スープの専門店」という新しい視点からスーパーストックエキョーを立ち上げ、今では全国に店舗が拡大され、成功を取っています。また、そこを原点に派生とした、大人が食べたいお子ランチを目玉にしたレストランの立ち上げなど、オリジナルを自ら発信していく姿に憧れを抱いています。自分のやりたいことを、形にするすべしでは起業に魅力を感じますし、今、見落としているかもしれない新たなターゲットに向けたビジネスを考えるのも楽しいです。起業に向けての地道な行いに関してはマイナスイメージを持ちますが、社会に新たな風を吹かせることのできる起業にはプラスイメージを抱いています。なので「わからない」にしました。
156	3	1	3	何もないところから新しいものを創造していくことにすごく興味があり、ゼミも1期生になれるところを選んだが、日本を支えてきた企業をなくすということは考えられない思いもある。自分の父親は呉服屋で、今この業界は倒産していく会社ばかりだとよく聞いているので、そういった日本の誇りである伝統産業も含めて絶対に残していかなければならないものもあると思う。新しいものを生み出したと思う反面、この先ずっと残していかなければならないものから目を背けることはできないという葛藤が今の自分の中にあるからです。
179	4	1	3	現段階では起業するにあたっての知識であったり細かい深堀のところがか全然わからないので何とも言えないです。もしこの先知識が伴ってやりたいことがあれば、起業したりする可能性はなくはないです。
181	4	2	3	私は2年前にビジネスプランコンテストの運営をしていたこともあり、起業というものにはとても興味があります。起業をしたいという思いを持った同年代の子たちは、とてもあついい人たちばかりでした。しかし、その中で本当にかついの起業した後だということもわかりました。日本=失敗は悪いことという考え方が多いからかもしれません。しかし私も失敗ということを見ると起業したいとははっきり言うことができません。
186	4	1	3	VCから資金調達や銀行の融資を受けてまで、自分から起業しようとは思わない。卒業後、企業に就職し、ワークライフバランスを大切にしたいと考えている。ただし、会社に行きつつも、副業的に法人化しておくのは「あり」だとは考えている。それは周りの人たちに影響されている。
188	4	1	3	理由は、自分が起業・創業することを今はまったく想像できないからである。ですので、まずは企業に入って、さまざまな業界・業種の人々と関わり合い、社会や経済を知ることから始めたいです。そのなかで、自分のやりたいことがその企業で叶えられるかという思いも思ったり、起業・創業したいと思います。今は「わからない」を選択しましたが、企業に入ってから5年、10年経過したときに、「思う」「思わない」の解答が出ると思います。ですので、中途半端ですが、今回は「わからない」を選択しました。
191	4	2	3	まだ今現在の私に、解決したい（すべき）課題や自分でやりたい（何かで起業したい）との思いはありません。ただこれから社会に出て働くなかで、その企業ではできず、自分でしたい、もしくはやらねばならないという状況になってくれば、起業するかもしれません。しかし、将来のいつかに何か事業をおこないたい、起業したいと思ったときに実現できるような能力を身につけておく必要があるのではないかと思います。どんな能力を身につけるべきなのかは、まだまだ明確になってはいませんが、まずは来年就職をするときに、「こんな人でいたい」と思う自分に一番近づける企業でしっかりと働きたいと思っています。
192	4	2	3	現時点ではまずは企業人として社会に貢献し、日本の経済や企業というものについての認識を深めてから、その先をどうするか考えていきたいです。
196	4	1	3	今のところ起業したいという意欲はない。私は自分の会社・社員を引っ張って、成功するというより、さまざまな企業に助言を与えるコンサルタントになりたいと思っている。他者を助けながら、お金を儲けたい。もちろん、社会貢献などができる会社を創ればいいのだが、まずはコンサルタントとしてしっかりと能力を身につけていきたいと思っています。コンサルタントとして能力を身につけたうえで、自分の思考に変化があれば、起業するという選択肢もある。しかし「今の時点」で起業したいという意欲はなく、コンサルタントになりたい意欲が大きい。
198	4	1	3	起業・創業する場合、もし仮に急激に業績が伸び「大企業」になりうる可能性はもちろんあるが、始まりは中小企業なのである。中小企業は日本で約99.7%を占めており、なかには売上上昇続きの会社もあれば、毎年資金繰りで精一杯な会社もあり、千差万別の世界である。そして消費者側人間は「ブランド力」=信頼感）は表裏一体として考える人々がほとんどではないか。そのような状況になってくると、いくら優良な技術を有しようとも、「ブランド力」が消費者に届かないのである。私が「わからない」と答えた原因はまさにそこにある。もちろん、起業・創業で会社を立ち上げ、会社経営をするのはとても興味深いものである。しかし、大企業、もしくは中小企業であろうとも、今までの時間を経て、信頼関係を築いているであろう。だからこそ経営者側のマネジメントの勉強を必死に行わなければいけない。莫大なお金と時間をかけ、起業するものには、その後の危険リスクを考えるとここで簡単に「思う」とは答えづらいのではないかと考える。
206	4	1	3	私は起業したいと「思う」が、現時点では「わからない」。大学に入学し、起業するサークルに一度入ったことがある。そのとき周りにいた人たちは俗にいう「意識の高い系」の人たちだった。もちろん一部はそうでなく、しっかりと将来を見ていることをここで述べておく。1か月後、私は起業したいという漠然とした憧れしか抱いていないことに気がついた。したい欲望がないのに起業などできるわけがなかった。今の自分には、足りないものが多く、それは勉強だけでなく、社会問題への関心もだった。解決したい問題がないのに起業したいと平気で言っていた。自分が恥ずかしくなくなった。もし、私が起業するとしたら、そのときはきっと何をすべきかを考えていると立ちあげ。またそれがいかに社会的価値があるかを十分に理解しているときである。一度、2年ほど前に海外にサーバーをおくことで法律を逃れられたネットワークを起業しようと思いついた。当時は今ほどカジノ合法化についての議論はなされておらず、インターネットで検索しても何1つヒットしなかった。このとき、お金持ちの友人と本気で立ち上げようと話を進めたが、何1つ社会的に有意義でないということで話はなくなってしまった。つい先日 Google で検索してみたところ、たった2年前に私たちが考えていなかったことが、もういくつもできていた。当時本当にやっていた、と悔しい思いが必要なら、その素早い変化にある種の恐ろしさを感じた。もし私が起業する場合、その変化へ適応するための「体力」が必要であろう。今、私は就職活動をしているが、まだまだ欲望はきまらない。きつと就職した後に、いろいろな業務の知識をつけ、解決したい社会問題が存在し、なおかつ多くの人脉があるならば起業する選択もあり得るだろう。ただし、それらがすべて高いレベルで同時にそろうかどうかは今の私には到底「わからない」ことである。
208	4	1	3	大きな理由として私は起業・創業を「目的」ではなく「手段」として考えているからです。私が社会に出て、企業に属し、組織の一員として企業が抱える、ひいては社会が抱える問題を解決していきます。もしそのなかで自分が社会に対してもっとこうなればいい、自分しかできないと感じ、それが所属する企業にいては解決しえない状況になれば、私は自分の夢をかなえるために起業・創業という「手段」をとるとしています。その問題意識を持ち、所属する企業内で解決できるのであれば、起業・創業したいと考えられます。しかし、起業・創業することで自分の力で社対に対して大きなインパクトを与えられるという魅力や組織のトップとして働くという充実感があると考えているので、起業・創業は魅力的だと思います。
212	5	1	3	起業・創業に対して興味はあるが、現時点ではわからないことが多すぎるので「わからない」としています。たしかに、起業・創業をして成功すれば、お金持ちになれるという印象があるが、必ずしも成功するわけではなく、リスクの方が大きいと考えています。会社を起し、人を雇えばそのぶん責任も増える。しかも創出というものはやりがいがあり、しんどくても、充実した人生を送れるかもしれない。考えれば考えるほどわからなくなります。ただ自分の勝手な人生の目標が「たくさんの人に囲まれて死にたい。式にたくさんの人に出てもらいたい」というものなので、起業・創業でたくさんのお金があるのなら素敵だと思います。

整理番号	学年	性別 男1 女2	思う1 思わない2 わからない3	項目
230	6	2	3	<p>現在就職活動をしています。多くの中小企業の説明を聞くと新たな価値観、考え方を身につけることができているように思います。ときに大企業への説明会へ行ってみると、安定志向の方が多いか、チャレンジしようという気持ちが前面に出ていないように感じる場合があります。その一方では、中小企業の方は、よりよく改善していこうという気持ちにあふれ、生き生きと働いているように感じます。就職活動をとおして、中小企業へのイメージも変わりつつあるなかで、自ら起業・創業への気持ちは今のところありません。それは自分にとって魅力を感じている会社で働きながらでも、自らの提案もしくはチャレンジというものができるように思うからです。やりたいこと、上昇する気持ち、それは1つの企業で働きながらでもできると思っています。ただ、実際に働き、もっとこうしたい、自らで一から作り上げたという気持ちが芽生えたときには起業というかたちをとるかもしれません。今後は女性の活躍がうたわれ、私も1人の女性として男性に負けないような仕事をしていきたいと思っています。女性目線のものが増えていき、主婦になってから起業される方もよく聞きます。私は1つの企業で働きながら、ノウハウを身につけ、自立できるようになりたいと思います。その自立という選択のなかには起業という道もあるかもしれません。今後は起業への助けとなるような制度が充実していくように願います。</p>
236	5	1	3	<p>今自分には知識もなく、右も左も社会のことはわからない。知り合いにゆくゆくは起業したいと言っている人がいて、同じように学生で起業した人に通っているそうだが、そこまで具体的に行動に移しているのを見て、すごいと思う。自分はまだ起業したいなどと考えたことはないが、不純な動機だが、このまま理めれなくはない。もしかすると考えることになるかもしれない。</p>
237	4	2	3	<p>私が思う起業・創業するということは、そのビジネスを始める理由がなければならぬということだ。つまり、起業・創業はそのビジネスを始めなければこういった問題が解決されない、だから立ち上げるといふ理由が必要になる。私は現在就職活動を行っており、自分の関心のある消費財メーカーを見ている。それはまだまだその分野の可能性を感じているからだ。しかし、企業という既存のところで自分のしたい、やらなければならないと思うことができなと思えば、起業という選択肢も必要だと考える。</p>